

進捗状況報告シート

(2011年度・聖和短期大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

| | |
|------|--|
| 対象部局 | 聖和短期大学 |
| 大項目 | 0 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標 |
| 中項目 | |
| 小項目 | 0.0.1 建学の精神・教育理念が確立していること。 |
| 要素 | 建学の精神が確立し明確に示されているか。 教育理念が確立し明確に示されているか。 |
| 小項目 | 0.0.2 教育目的・教育目標が明確であり点検の努力がみられること。 |
| 要素 | 教育目的もしくは教育目標が全学的に示されているか。 教育目的もしくは教育目標は定期的に点検されているか。 教育目的もしくは教育目標はどのような手続きで点検されているか。 |
| 小項目 | 0.0.3 教育目的・教育目標が共通に理解される努力がみられること。 |
| 要素 | 教育目的や教育目標を全学的に学生や教職員が共有するために具体的な施策を行っているか。 日頃から教育目的や教育目標を実現し共有するための具体的な施策について理事会や教授会で議論しているか。 |

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

| 2009年度に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 進捗評価 | | | | |
|--|---|------|------|------|------|------|
| | | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
| 1. 建学の精神および教育理念を関西学院のミッションステートメントのなかで再確認し、記載方法、内容を再検討し、本学の教育・研究等あらゆる活動の指標とする。 | →建学の精神、教育理念の記載方法および内容の再検討の進捗状況。 | D | C | | | |
| 2. 学生、教職員対象のオリエンテーション、学校礼拝、研修プログラム等をとおして、本学のミッション、建学の精神、歴史を学内で共有する。また大学案内パンフレット、教育懇談会、実習協議会、入試説明会等をとおして、学外への周知を図る。 | →オリエンテーション、学校礼拝、研修プログラム、教育懇談会、実習協議会、入試説明会の実施状況。大学案内パンフレットの記載内容の検討の進捗状況。 | C | B | | | |
| | | ★ | | | | |
| 2010年度以降に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
| なし | →なし | | | | | |
| なし | →なし | | | | | |

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

| | |
|------------|---|
| 小項目0.0.1 | 0.0.1 建学の精神・教育理念が確立していること (ミッションステートメント・建学の精神・教育理念) ・ミッションステートメント：関西学院は、キリスト教主義に基づく「学びと探究の共同体」として、ここに集うすべての者が生涯をかけて取り組む人生の目標を見出せるよう導き、思いやりと高潔さをもって社会を変革することにより、スクールモットー“Mastery for Service”を体現する、創造的かつ有能な世界市民を育てることを使命とします。 ・建学の精神：関西学院の建学の精神であるキリスト教主義に基づき、聖和短期大学は、神が私たち一人ひとりを愛してくださっていることを知り、イエス・キリストが示された生き方にならって、他者一特に幼い者や社会的に弱くされた者たちへに仕える働き人を養成するために建てられている。 ・教育理念：ここに集う一人ひとりの全人的で調和のとれた成熟のために、3つのH-Head：真理の探究、Heart：自分を愛し人を愛する心、Hand：奉仕と実践-を大切にする。 上記については、学生に配布する『要覧』等に明示し、入学式、卒業式、オリエンテーション、学校礼拝等をとおして学生、教職員に伝えている。また学外に対しては、各種パンフレット、ホームページ等で周知を図り、保護者を対象とした教育懇談会、実習関係先との実習協議会、非常勤講師との懇談会等でも説明を行っている。 |
| ★ 小項目0.0.2 | 0.0.2 教育目的・教育目標が明確であり点検の努力がみられること。 (教育目標)キリスト教精神に基づく豊かな人間性、専門性、実践力を兼ね備えた保育者の育成。 上記については、学生に配布する『要覧』等に明示し、また入学時のオリエンテーションや学校礼拝等をとおして学生、教職員に説明している。 |
| 小項目0.0.3 | 0.0.3 教育目的・教育目標が共通に理解される努力がみられること 入学時のオリエンテーションでは、歴史的な写真や資料を用いて、教育の土台となっている本学の歴史について学ぶ時をもって。毎日行われている学校礼拝は、宗教主事だけでなく学生有志、教職員、卒業生が協力して企画、担当しており、おのずと本学の建学の精神、教育理念、教育目標に関わるメッセージが伝えられている。また授業を通して教育目標への理解が深められている。 教育理念、教育目標を実現し、共有するため、今年度は教員と職員の合同の研修会を初めて開催し、関西学院のミッションステートメントのもとで短期大学のめざす人間像について検討を始めた。 |

| | |
|-----|--|
| その他 | |
|-----|--|

《評価指標データ》

| | |
|---|--|
| ★ | |
| ★ | |
| ★ | |

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

| | |
|-----------|---|
| 小項目0.0.1 | 関西学院のミッションステートメントのもとで「聖和短期大学のめざす人間像」について検討をはじめた。 |
| 小項目0.0.2 | |
| ★小項目0.0.3 | 今年度、ミッションステートメント、教育理念、教育目標等を実現し、共有するため、教職員研修会を開催した。 |
| その他 | |

【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策 注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

| | |
|-----------|--|
| 小項目0.0.1 | さらに教職員全体での話し合いを進め、「聖和短期大学のめざす人間像」を完成させる。 |
| 小項目0.0.2 | |
| ★小項目0.0.3 | ミッションステートメント、教育理念、教育目標等を実現し、共有するため、教職員研修会を今後も定期的に行う。 |
| その他 | |

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

| | |
|-----------|---------------------------|
| 小項目0.0.1 | |
| 小項目0.0.2 | 教育目標について、定期的な点検が実施できていない。 |
| ★小項目0.0.3 | |
| その他 | |

《次年度に向けた方策(2)》改善方策 注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

| | |
|-----------|--|
| 小項目0.0.1 | |
| 小項目0.0.2 | 次年度のカリキュラムを検討する時、また要覧等を作成する時に点検の機会をもつ。 |
| ★小項目0.0.3 | |
| その他 | |

◎自由記述

《点検・評価》&《次年度に向けた方策》

| | |
|----------------|--|
| ★その他 (自由記述) | |
|----------------|--|

Ⅲ. 学内第三者評価

＜評価専門委員会の評価＞

【学外委員】

○建学の精神や教育理念が明確に体系化され、学内外にさまざまな機会や発信媒体を利用して広く伝える努力が継続的に進展しています。特に、小項目0.0.3に「授業を通して教育目標への理解が深められている」と記述されているように、理念や目標がとりわけ授業の中で具体的に扱われていることは大いに評価できます。その成果を検証することが期待されます。「聖和短期大学のめざす人間像」が早く完成され、学内外に広報されることが短期大学の独自性を打ち出す上でとても大切なことだと思います。

○総合的に概観して、システムとして「Ⅱ. 自己点検・評価（2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告）」項目で、進捗評価がA～D迄設定され、たとえば、進捗内容が2010年度自己点検・評価の「A：適切に実行している」から、2011年度では「A：目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。」と、「①適切に実行と②目標を達成」との2項目の内容が明示され、達成されたらA段階になる、と明確にしたのは大いに評価できます。

○《現状の説明》の小項目0.0.1は、前年度と比較すると、丁寧に分かりやすく書かれていることは評価できます。

○【点検・評価（2）】改善すべき事項の小項目0.0.2「教育目標について、定期的な点検が実施できていない。」の、《次年度に向けた方策（2）》改善方策 小項目0.0.2「次年度のカリキュラムを検討する時、また要覧等を作成する時に点検の機会をもつ。」は、実行が待たれます。

【学内委員】

○建学の精神・教育理念について、再確認、全学での共有などの活動が着実に進められており、評価できます。

○ミッションステートメント、建学の精神、教育理念、教育目標は明確です。

○昨年度の自己点検・評価における学内第三者評価にも対応され、各小項目の内容に適切に、また誠実に応えられています。昨年度の課題、（改善）方策にあげられたことも実行されています。ただ、昨年度、方策において「再検討する」などとされた事柄が、どのような進展を見せたかがこの記述では不明です。目標の進捗状況にも繋がります。これらを明らかにすることによってPDCAが機能しているか検証できます。

○特に、教育目標の定期的な点検は、昨年度も改善すべき事項としてあがっており、実行されていません。改善方策に、次年度のカリキュラム検討時との記載があります、また、要覧等を作成する時、とも記述されていますが、何時でしょうか。要覧等と「等」の記載があり、少し曖昧な感じですが、具体的な点検の時期、場所（委員会）を確立されることを期待します。

○昨年度、方策であげられたことを実行された場合、現状説明においてそのように記述されると、その努力がより分かりやすく伝わると思います。

○小項目0.0.1の「示されているか」については、学内外への周知についても考えることが必要となってきます。小項目にある「点検」をするに際して、周知されているかどうか重要な点検の要素になります。目標の2において「周知」とされていることから、この視点が必要です。

○ミッションステートメント、建学の精神、教育理念、教育目標などの周知はその測定方法が難しいのですが、測定方法を確立され、定期的な点検、改善が行なわれることを期待します。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

改善すべき事項改善方策0.0.2を次の文章と差し替える。「次年度のカリキュラムを検討する7月頃、要覧等を作成する1月頃、学長室会で点検する機会をもつ。」

進捗状況報告シート

(2011年度・聖和短期大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

| | |
|------|--|
| 対象部局 | 聖和短期大学 |
| 大項目 | 1 教育の内容 |
| 中項目 | |
| 小項目 | 1.0.1 教育課程が体系的に編成されていること |
| 要素 | 教育課程には建学の精神や教育理念が反映され、またその内容はそれぞれの学科等の教育目的や教育目標に基づいたものであるか。 教育課程には教養教育への取組みがなされているか。 教育課程は短期大学の専門教育として十分な内容を備えているか。 教育課程の主要な科目に専任教員が適切に配置されているか。 それぞれの授業は短期大学にふさわしい内容とレベルを有しているか。 それぞれの授業の単位認定と評価は適切に行われているか。 教育課程改善への意欲は十分か。また教育課程改善への組織的な対応はなされているか。 |
| 小項目 | 1.0.2 教育課程が学生の多様なニーズに応えるものとなっていること |
| 要素 | 教育課程には免許・資格等の取得への配慮がなされているか。 教育課程の授業形態（講義、演習、実験・実習等）はバランスがとれているか。 教育課程は必修と選択のバランスが適切であり、また選択科目は学生に選択の自由を保障しているか。 それぞれの授業内容に応じたクラス規模は適当であるか。 卒業要件は適切であり、その要件は学生に理解しやすい表現となっているか。 それぞれの授業について学生は意欲を持って履修できるように工夫しているか。 |
| 小項目 | 1.0.3 授業内容、教育方法及び評価方法が学生に明らかにされていること |
| 要素 | シラバスあるいは講義要項等が作成され、事前に学生に配付されているか。また学生は活用しているか。 シラバスあるいは講義要項等は授業の概要を示す十分な内容を有しているか。また学生に理解しやすい表現になっているか。 それぞれの授業には教科書、参考書等が用意され、また参考文献等が示されているか。 |
| 小項目 | 1.0.4 授業内容、教育方法に改善への努力がみられること |
| 要素 | 学生による授業評価が定期的に行われ、その評価結果が授業改善のために活用されているか。 短期大学全体の授業改善（FD活動等）への取組みは活発か。また授業改善のための組織等が設置され活発に活動しているか。 それぞれの授業の担当教員は授業改善への意欲を持っているか。 授業担当者間での意思の疎通、協力・調整はなされているか。また兼任教員（非常勤講師）との意思の疎通はなされているか。 授業改善や教員の能力開発のための経費は準備されているか。 授業改善を支援する職員の研修（SD活動等）は、定期的に行われているか。 |

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

| 2009年度に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 進捗評価 | | | | |
|----------------------------------|--|------|------|------|------|------|
| | | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
| 1. 教育目標にもとづいた教育課程編成の方針の明示。 | →教育課程編成の方針の明文化、「要覧」「履修の手引き」への記載、履修指導の説明の時間等の充実 | C | C | | | |
| 2. 実践力を培うために保育現場と連携した授業実施。 | →保育現場と連携した授業内容の検討及び実施状況。 | C | B | | | |
| 3. 保育職の専門性向上のため、旧教員・卒業生などの積極的活用。 | →旧教職員・卒業生などとの連携状況。 | C | B | | | |
| 4. シラバスの記載内容の充実、不完全シラバスをなくす。 | →不完全シラバス数、シラバス記載内容の変更。 | C | B | | | |

☆

| 2010年度以降に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 進捗評価 | | | | |
|-------------------------------------|---|------|------|------|------|------|
| | | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
| FD検討会の活性化、学外研修などの活用により、現状以上に授業を改善する | →FD検討会の内容、方法の再検討、全国保育士養成協議会主催のセミナーおよび研究会への積極的な参加、研究発表など | C | C | | | |

※ 左記目標は2010年度より評価項目2から本項目に移動。そのため、評価項目2での2009年度進捗評価を示した。

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

| | |
|-----------|---|
| 小項目 1.0.1 | 1.0.1 教育課程が体系的に編成されていること 本学の教育課程は建学の精神や教育目標である「キリスト教精神にもとづく豊かな人間性、専門性、実践力を兼ね備えた保育者の育成」にもとづき、さらに130年の伝統を引き継ぎ、教育課程が編成されている。幼稚園・保育所・児童福祉施設などにおいて幼い子どもの育ちを支える保育者には、豊かな人間性、子どもに対する正しい発達観、どのような子どもを育みたいのか保育観が求められ、その土台は学生一人一人の職業倫理をも含めた教養である。しかし、近年の学生の様子の変化は保育を学ぼうとする者にも顕著に現れ、さらなる工夫が必要である。幼稚園教諭養成課程については、所轄官庁の文部科学省に教育課程、教員の担当科目・業績などを届け出ている。保育士に関しては、所轄官庁の厚生労働省から「指定保育士養成施設基準」が通知され、そこには教育課程や教科目の単位数、授業形態である講義・演習・実習の区別、演習科目当たっては1クラス50名以下、出席と評価の方法、さらに、教科目の授業内容についてもシラバスが提示されておりこれを遵守している。2011年度より「指定保育士養成施設基準」の変更のため、教育課程、開講科目、担当者を所轄官庁に変更届けを出し許可を受け、新教育課程で運用を開始した。 |
| 小項目 1.0.2 | 1.0.2 教育課程が学生の多様なニーズに応えるものとなっていること 本学の教育課程は、幼稚園教諭免許及び保育士資格を取得できるように編成され、これらをベースに児童厚生指導員、認定ベビーシッター、社会福祉主事任用資格の資格も取得できるように編成しており、幼稚園・保育士の免許・資格に関しては多くの学生が修得している。しかし、これらの免許・資格を修得するためには、現状説明小項目1.0.1のように所属官庁の指導を受けており、短期大学の修業期間である2年間において選択科目の充実が難しいのが現状である。今年度、保育士養成課程の改定が実施され、一年生より新教育課程で運用している。2年生など何らかの事情で過去に単位を取得できなかった学生には個別に履修指導を行った。 |
| 小項目 1.0.3 | 1.0.3 授業内容、教育方法及び評価方法が学生に明らかにされていること 新入生はオリエンテーション時に、在学学生は登校日に「要覧」「履修の手引き・開講科目教科内容」を用いて、教育課程、授業計画について説明し、シラバスに記載されている授業内容や評価方法、テキストについて説明している。また、それぞれの教科目の初回授業に授業においてもオリエンテーションを行い、評価方法などを説明している。保育士養成課程の所管官庁の指導により、シラバスには15回の授業内容、成績評価基準、テキストが記載されている。 |
| 小項目 1.0.4 | 1.0.4 授業内容、教育方法に改善への努力がみられること 授業評価アンケートに関しては、春学期秋学期とも全科目を対象に実施している。授業評価アンケートの回収については、公平性を保つため担当教員に提出するのではなく、受講生の手によって回収し、事務室に提出してもらっている。評価結果については、掲示板で公表し、各教員には担当科目の結果を配布している。専任教員に対しては、教員養成課程や保育士養成課程の改定に際し、その内容を教授会で説明し、シラバス作成時には「幼稚園教育要領」や「指定保育士養成施設基準」で示されたシラバスを添付しその作成を依頼した。非常勤講師に対しては、「指定保育士養成施設のカリキュラム改正について」の冊子を作成し、非常勤講師との情報交換会において説明を行った。また、年に4回のFD検討会を開催しているが、今年度は初めてFD, SD合同の研修会を実施した。 |
| その他 | |

《評価指標データ》

| | |
|---|--|
| ★ | |
| ★ | |
| ★ | |

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

| | |
|-----------|---|
| 小項目 1.0.1 | |
| 小項目 1.0.2 | 在学するほとんどの学生が幼稚園免許・保育士資格を取得し卒業している。またその他の資格についても、積極的に取得する姿がみられる。(2010年度卒業生155名中、幼稚園教諭二種免許状144名、保育士130名、児童厚生二級指導員51名、認定ベビーシッター98名が取得) 1年次の「基礎演習」において聖和幼稚園と連携し行事の手伝いを全員が行っており、教材の準備をするときの注意なども学び、保育者となる意欲を高めている。 |
| 小項目 1.0.3 | |
| 小項目 1.0.4 | |
| その他 | |

【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

| | |
|-----------|--|
| 小項目 1.0.1 | |
| 小項目 1.0.2 | 免許・資格の対象となる幼稚園や児童福祉施設、子育て支援等の実情等について、経験者と連携し、授業で積極的に取り上げる。 |
| 小項目 1.0.3 | |
| 小項目 1.0.4 | |
| その他 | |

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価 (2)】改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

| | |
|------------|---|
| 小項目 1.0.1 | |
| 小項目 1.0.2 | 保育行政の動向と課題に対応した教育課程の編成。 |
| ★小項目 1.0.3 | |
| 小項目 1.0.4 | 現在実施している授業評価アンケートは、講義、演習、実習等授業形態、方法に応じた評価項目になっていないため、再検討の必要がある。 |
| その他 | |

《次年度に向けた方策(2)》改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

| | |
|------------|----------------------------------|
| 小項目 1.0.1 | |
| 小項目 1.0.2 | 保育行政の動向と課題についての情報の収集。 |
| ★小項目 1.0.3 | |
| 小項目 1.0.4 | 現在実施している授業評価アンケートの評価項目について再検討する。 |
| その他 | |

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

| | |
|----------------|--|
| ★その他 (自由記述) | |
|----------------|--|

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

○修業期間が2年間という短期大学の時間的に厳しい枠内で、所轄官庁の諸基準をクリアして専門教育が体系的に編成され、運用されています。今後の保育行政の動向と課題に対しても先んじて取り組む姿勢も見られますので、その成果が期待されます。ただし情報収集の方策について具体性に欠けます。聖和短期大学の教育課程の中核をなしている幼稚園免許・保育士資格の取得についても十分な成果を上げることが評価できます。その他の資格についても種々用意されていますが、修業期間が短いだけにそれらの資格取得についての短期大学の指導指針と学生のニーズとが合致しておればなお素晴らしいことです。

○進捗評価は、2009年度は全項目Cでしたが、2010年度は4項目3項目でBになったことは評価できます。

○Ⅱ. 自己点検・評価(2010.5.1~2011.4.30の進捗状況報告)の、2009年度に設定した「目標」「1. 教育目標にもとづいた教育課程編成の方針の明示。」では、進捗評価Cで、2010年度もCであり、進捗が見られないので、今後の努力を望みます。同じく、2010年度以降に設定した「目標」の、「FD検討会の活性化、学外研修などの活用により、現状以上に授業を改善する」項目でも、進捗が見られないのは残念です。

○◎効果が上がっている事項、小項目1.0.2では、幼稚園教諭二種免許状取得者率は92.9%、保育士83.9%という結果ですが、両免許資格所得者数、どちらかの免許資格所得者数、また、無資格者数も明らかにして下さい。

○なお、この取得率結果については全教員が話し合い、授業方法や個人指導をし、納得して出てきた結果でしょうか。

【学内委員】

○教育課程の編成など、教育内容について、適切に行われており、評価できます。

○昨年度の自己点検・評価における学内第三者評価にも対応され、各小項目の内容に適切に、また誠実に応えられています。ただ、昨年度、方策において「検討する」「確認する」「機会を持つ」などとされた事柄が、どのような進展を見せたかがこの記述では不明です。目標の進捗状況にも繋がります。これらを明らかにすることによってPDCAが機能しているか検証できます。

○教育課程編成方針(カリキュラムポリシー)は昨今特に重要視されており、聖和短期大学の目標にも掲げられています。まだ進捗状況が「C」ですが、早急な方針明示が望まれます。

○現状説明において、「近年の・・・さらなる工夫が必要である」とされていますが、改善すべき事項にあがっていません。改善方法を検討される事項ではないでしょうか。

○小項目1.0.2の伸長させるための方策は、昨年度もあげられていましたので、是非実現されるよう期待します。

○小項目1.0.4の伸長させるための方策は、「再検討する」とのことですが、より具体的なスケジュールを示す必要があります。

○目標にシラバスのことが掲げられていますが、早急に目標を実現されることが期待されます。

○授業評価アンケートを全科目、両学期に実施され、回収や結果についても考慮されていることは評価できます。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★効果が上がっている事項小項目1.0.2を次の文章と差し替える。「在学するほとんどの学生が幼稚園免許・保育士資格を取得し卒業している。またその他の資格についても、積極的に取得する姿がみられる。(2010年度卒業生155名中、幼稚園教諭二種免許状144名92.9%、保育士130名83.9%、児童厚生二級指導員51名32.9%、認定ベビーシッター98名63.2%が取得)1年次の「基礎演習」において聖和幼稚園と連携し行事の手伝いを全員が行っており、教材の準備をするときの注意等なども学び、保育者となる意欲を高めている。」改善方策小項目1.0.4を次の文章と差し替える。「現在実施している授業評価アンケートの評価項目等について検討し、2013年度新たな項目で実施を目指す。」

進捗状況報告シート

(2011年度・聖和短期大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

| | |
|------|---|
| 対象部局 | 聖和短期大学 |
| 大項目 | 2 教育の実施体制 |
| 中項目 | |
| 小項目 | 2.0.1 教員組織等が整備されていること |
| 要素 | 設置基準の教員数の規定（教授数を含む）を充足しているか。 教員は学位、教育実績、研究業績、制作物発表、その他の経歴等、短期大学の教員にふさわしい資格と資質を有しているか。 教員の採用、昇任はその選考基準等が整備され適切に行われているか。 教員の年齢構成はバランスが取れているか。 教員は、（a）授業担当、（b）研究活動、（c）学生指導、（d）その他教育研究上の業務に意欲的か。 助手、補助職員等が確保され、教育活動等に機能しているか。 教育実施にあたる責任体制は確保されているか。 |
| 小項目 | 2.0.2 教育環境が整備・活用されていること |
| 要素 | 保有する校地の面積は設置基準の規定を充足しているか。また校地は教育環境として適切に整備されているか。 保有する校舎の面積は設置基準の規定を充足しているか。また校舎は授業や学生生活のために常に整備され快適な環境となっているか。 それぞれの授業を行うにふさわしい講義室、演習室、実験・実習室を十分に用意しているか。 それぞれの授業を行うにふさわしい情報機器を設置するパソコン教室、マルチメディア教室、LL教室は整備されているか。また学生自習室等は整備されているか。 授業用の機器・備品についてその整備システムが確立しているか。また、それぞれの授業を行うための機器・備品は十分に備わっているか。 保有する校地と校舎は学生や教職員の安全性に配慮しているか。また障害者に対応したのものとなっているか。 適切な広さの運動場、体育館を有しているか。 |
| 小項目 | 2.0.3 図書館もしくは学習資源センター等が整備されていること |
| 要素 | 図書館（以下、学習資源センター等を含む）の蔵書数、学術雑誌数、AV資料数及び座席数等は、在籍学生数に比し適当か。 図書館の広さは充分であり、その環境は適切に整備されているか。また蔵書数の増加等、将来に備えたものとなっているか。 年間の図書（以下、学術雑誌、AV資料等を含む）購入予算は充分か。また購入図書選定システムや廃棄システムは確立しているか。 図書館には学生が利用できる参考図書、関連図書は十分に備えられているか。 司書数、司書の能力、図書検索システムなどを含む、図書館のサービス体制は充分か。 学生の図書館利用を活発にするための努力は行っているか。 学内外への情報発信、他の図書館との相互利用活動など、図書館活動は活発か。 |

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

| 2009年度に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 進捗評価 | | | | |
|--|---|------|------|------|------|------|
| | | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
| 1. 教育実績、研究業績、社会的活動等短期大学教員として必要な資質の向上 | →研究活動、社会的活動に関する報告書提出の徹底および情報公開の実施 | C | B | | | |
| 2. 学生の図書館活用能力を向上させ、短期大学図書館の入館者数、貸出冊数を1.5倍にする | →オリエンテーションの実施状況およびアンケート調査結果、入館者数、貸出冊数、ホームページ、OPAC、電子ジャーナルへのアクセス数等 | C | B | | | |
| | | | ☆ | | | |
| 2010年度以降に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
| なし | →なし | | | | | |
| なし | →なし | | | | | |

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

| | |
|-------------|--|
| 小項目 2.0.1 | 2.0.1 教員組織等が整備されていること 大学教員として必要な資格および資質に関しては、昨年度幼稚園教諭免許の課程認定委員会の教員審査を受けている者が全体の教員数の66%となっている。また、短期大学の過密なスケジュールのなかで授業を工夫し、年々、多くの時間を要する実習や就職指導等、学生指導を熱心に行い、校務分掌も担当している。教員の採用、昇任については「聖和短期大学教員選考基準」「聖和短期大学教授、准教授、助教及び専任講師の任用に関する規程」等に基づき実施している。2010年度専任教員数15名（教授8名、准教授4名、専任講師3名） |
| ★ 小項目 2.0.2 | 2.0.2 教育環境が整備・活用されていること 校地、校舎については設置基準を満たし、関西学院大学教育学部との共用ではあるが、講義室、演習室、美術室、家庭科室、理科室、小児保健実習室、ピアノレッスン室、ピアノ練習室、PC教室等が整備されており、すべての講義室にAV機器が設置されている。短期大学図書館には4つの閲覧室およびパソコンルーム、AV室が整備されている。安全性、障害者への対応については、EV、障害者トイレ、点字ブロック、スロープ等の設置および避難路表示等に対応している。また上ヶ原キャンパスの諸施設についても、関西学院大学教育学部生と同様に利用できる。 |
| 小項目 2.0.3 | 2.0.3 図書館もしくは学習資源センター等が整備されていること 西宮聖和キャンパスの学生数の増加や、教育学部生・短期大学生とも館内オリエンテーション実施による効果があり、2010年度の入館者数は、43,998人と昨年度に比べて増加している（2009年度比約49%増加）。それに伴い閲覧座席（315席）の稼働率もあがっている。 |
| その他 | |

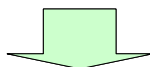
《評価指標データ》

| | |
|---|--|
| ★ | |
| ★ | |
| ★ | |

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

| | |
|-------------|---|
| 小項目 2.0.1 | |
| 小項目 2.0.2 | 合併後、施設・設備の整備が進み、さらに上ヶ原キャンパスの諸施設の利用も可能となり、他短大より教育環境が充実している。 |
| ★ 小項目 2.0.3 | 短期大学・教育学部の全新生に対して短大図書館（以下、図書館）内のツアーを行った。短大新生全員に対しては、図書検索システムの講習をおこなった。教育学部新生に関しては、大半が大学図書館（上ヶ原キャンパス）において館内ツアーと講習を受講している。このことにより、図書館の利用について理解し、活用方法を身につけることができた。2010年8月より図書館システムを更新したことにより、他キャンパスの資料や文献複写物の取り寄せが開始され、利用者の利便性が増した。また、蔵書点検を行い、データや装備の不備を発見・訂正した。このことは蔵書検索の精度上昇にもつながった。 |
| その他 | |



【次年度に向けた方策(1)】伸ばさせるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

| | |
|-------------|--|
| 小項目 2.0.1 | |
| 小項目 2.0.2 | |
| ★ 小項目 2.0.3 | 図書館の活用方法について周知させるため、新生・在生を問わず、さらにガイダンスに力をいれていく。在生に対しては、指導教員と相談の上、カリキュラムを組み、それぞれのニーズに応じていく。新生に対しては、図書館の活用方法とあわせて、映画等のAV資料を視聴できることも紹介し、まずは図書館に対して親しみを持たせるように図っていく。 |
| その他 | |

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

| 【点検・評価 (2)】改善すべき事項 | | 注) 出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。 |
|--------------------|---|--------------------------------|
| 小項目2.0.1 | 教員養成課程や保育士養成課程の改定に際し、その改定の意図等について短期大学全体で検討する時間が少ない。(削除) | |
| 小項目2.0.2 | 講義室、実習室等については、共用している関西学院大学教育学部の完成年度に不足する可能性がある。 | |
| ★ 小項目2.0.3 | 2010年度の貸出点数は、21,033冊(2009年度比約25%増加)である。昨年度より増加しているものの、入館者数と比較して増加率が低い。今後は関学大教育学部生の実習・就職活動が本格化することもあり、利用者のニーズを踏まえ、より一層の蔵書構成の充実をはかっていく。 | |
| その他 | | |

↓

| 【次年度に向けた方策(2)】改善方策 | | 注) 出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。 |
|--------------------|--|---|
| 小項目2.0.1 | 教員養成課程や保育士養成課程の改定に際しそれを理解する場や時代に適切な教育内容であるかを確認する機会を設ける。(削除) | |
| 小項目2.0.2 | 講義室等の増設 | |
| ★ 小項目2.0.3 | 4階教育学部資料室の資料増加のため、利便性を考え、教育分野以外の資料を1階教育学部資料室へ移動を行った。これにより、1階教育学部資料室の利用の増加を図る。また、短大図書館として特長ある貴重図書(しかけ絵本)の収集を進めている。これらの展示を計画し、利用者に向けて図書館の新たな一面をアピールしていきたい。 | |
| その他 | | |

◎自由記述

| 【点検・評価】&【次年度に向けた方策】 | |
|---------------------|--|
| ★ その他 (自由記述) | |

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

○施設・設備の面で教育環境が格段に充実してきていることは大いに評価できます。特に、前年度より引き続き図書検索システム(OPAC)の導入や関西学院大学図書館との一元化が順調に進展しています。従来より予測されている講義室・実習室の増設が具体化されることが望まれます。障がい者に対する安全への対応も進んでいますが、さらに一すでになされているかも知れませんが一手話授業や点字翻訳機の設置等についての検討がなされてはどうでしょうか。

○《現状の説明》小項目2.0.3では、小項目2.0.3「2010年度の入館者数は、43,998人と昨年度に比べて増加している(2009年度比約49%増加)。」との記述ですが、1人あたりの入館回数もあれば具体的な把握が一層できます。

○用語の使い方ですが、法律で規定されているのかもしれませんが、可能な限り統一されることが望まれます。例えば、《現状の説明》小項目2.0.2では、「校地、校舎」と使い 2.0.3では「西宮聖和キャンパス」となっています。また、小項目2.0.2では、「関西学院大学教育学部との共用ではあるが、「上ヶ原キャンパスの諸施設についても、関西学院大学教育学部生と同様に利用できる。」となっていますが、「関西学院大学」は必要なのでしょうか。

【学内委員】

○設定された目標へ向けてのさらなる進展、施設整備の検討が期待されます。

○昨年度、方策において示された事柄の中で、どのような進展を見せたかが不明なものがあります。これらを明らかにすることによってPDCAが機能しているか検証できます。

○特に2年続けて同じ方策が示されているということは、改善が進んでいないということですから、何らかの記述が必要でしょう。繁忙な中で時間を設けて検討を行い、各種改善を行うことは難しいと思いますが、着実に改善されていくことを期待します。

○講義室不足は早急に改善される事項かと思いますが、どれ程不足するのかを示す必要があるでしょう。

○伸長させるための事項、改善方法の記述においては、できるだけ具体的なものが望まれます。

○小項目2.0.3の現状説明においては、蔵書数、貸出冊数も示してください。

○図書館の蔵書数、利用者数、利用率、貸出冊数、座席数、座席数の割合などは経年データをシートに貼り付けることをお考えください。目標にも入館者数、貸出冊数を1.5倍にすると示されていますので、その指標としても経年データが必要でしょう。

○2007年度の認証評価において、「兼担の多さ」について指摘されています。現状はどうでしょうか。

【事務的な指摘】

○「上ヶ原」は「上ヶ原」と「ヶ」を大文字にしてください。

○小項目2.0.3の現状説明において、「上ヶ原キャンパス」とありますが、「関西学院のキャンパスである上ヶ原キャンパス」などの表現の方が外部者にはよく分かると思います。

○本シートは聖和短期大学の自己点検・評価を記載するものですから、原則、教育学部の記載は不要かと思いますが、外部には何故教育学部が出てくるのか分からないと思います。しかし、現実には教育学部とは同じキャンパスであり、いろいろなつながりがあります。従って、教育学部が同じキャンパスであることや共同で施設を利用していることなどをどこかに記載されることが必要ではないでしょうか。

IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

現状説明2.02を次の文章と差し替える。「校地、校舎については設置基準を満たし、関西学院大学教育学部との共用ではあるが、講義室、演習室、美術室、家庭科室、理科室、小児保健実習室、ピアノレッスン室、ピアノ練習室、PC教室等が整備されており、すべての講義室にAV機器が設置されている。短期大学図書館には4つの閲覧室およびパソコンルーム、AV室が配備されている。安全性、障害者への対応については、EV、障害者トイレ、点字ブロック、スロープ等の設置および避難路表示等に対応している。また関西学院のキャンパスである上ヶ原キャンパスの諸施設についても、関西学院大学学生と同様に利用できる。」効果が上がっている事項2.0.2を次の文章と差し替える。「合併後、施設・設備の整備が進み、さらに関西学院のキャンパスである上ヶ原キャンパスの諸施設の利用も可能となり、他短大より教育環境が充実している。」
ご指摘のあった蔵書数・貸出冊数等の年度別データを、以下のとおり提出する。

★

図書館利用状況

| 聖和短期大学図書館 | | | | | | |
|--|---------|----------|----------------|-------|----------|----------|
| 1. 蔵書数 | | | 2. 利用者数 | | | |
| 年度 | 点数 | 前年度比 (%) | 年度 | 人数 | 前年度比 (%) | |
| 2009 | 159,877 | - | 2009 | 1,678 | - | |
| 2010 | 161,911 | 101.3 | 2010 | 1,861 | 110.9 | |
| (教育学部資料を含まず) | | | (非常勤教職員等を含む) | | | |
| 3. 貸出冊数 | | | 4. 座席数 | | | |
| 年度 | 点数 | 前年度比 (%) | 年度 | 席数 | 前年度比 (%) | 学生数比 (%) |
| 2009 | 16,751 | - | 2009 | 315 | - | 22.5 |
| 2010 | 19,749 | 117.9 | 2010 | 315 | 100.0 | 19.9 |
| (非常勤教職員等を含む) | | | | | | |
| 5. 入館者数 | | | | | | |
| 年度 | 人数 | 前年度比 (%) | | | | |
| 2009 | 17,194 | - | | | | |
| 2010 | 43,998 | 149.3(※) | | | | |
| (2009年度は、8月下旬から集計開始。年間入場者に換算すると、29,475人) | | | | | | |
| (※)2010年度の入館者数を、上記29,475人と比較した実質の前年度比。 | | | | | | |

★

進捗状況報告シート

(2011年度・聖和短期大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

| | |
|------|--|
| 対象部局 | 聖和短期大学 |
| 大項目 | 3 教育目標の達成度と教育の効果 |
| 中項目 | |
| 小項目 | 3.0.1 教育目標の達成への努力がみられること |
| 要素 | それぞれの授業の単位認定の方法(試験、レポートや制作物の提出等)は適切か。また単位の取得状況は妥当な範囲であり、担当教員による学習評価は適切に行われているか。 担当教員は、授業終了後の学生の満足度に配慮しているか。 退学、休学、留年等の学生の全体の学生に占める状況は妥当な範囲か。またそれらの学生に対するケアは充分か。 資格取得の取組みと実績は充分であるか。 編入学希望に対応しているか。 |
| 小項目 | 3.0.2 学生の卒業後評価への取組みの努力がみられること |
| 要素 | 専門就職(学習した分野に関連する就職)の割合は充分か。 卒業生の就職先からの評価について意見を聴取しているか。 教育の実績や効果を確認するために卒業生との接触、同窓会との連携等が行われているか。 編入先からの評価について意見を聴取しているか。 |

II. 自己点検・評価(2010.5.1~2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度~2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA~Dの4段階とし自ら評価した。A~D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

| 2009年度に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 進捗評価 | | | | |
|--|------------------------------------|------|------|------|------|------|
| | | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
| 1. 学生による授業評価アンケートの内容を再検討し、授業評価方法の改善を行う | →全授業科目の授業評価アンケートの実施、内容の検討状況 | C | C | | | |
| 2. 免許・資格を取得するための個別的な指導と支援を強化し、実績を維持する | →希望者の免許・資格取得の割合、ガイダンスの実施(回数及び参加者数) | C | B | | | |
| 3. 卒業生に対する就職先からの評価方法の検討および実施 | →評価方法の検討と進捗状況 | D | D | | | |
| | | ☆ | | | | |
| 2010年度以降に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
| なし | →なし | | | | | |
| なし | →なし | | | | | |

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

| | |
|------------|---|
| 小項目3.0.1 | 3.0.1 教育目標の達成への努力がみられること 各教科の単位認定(評価)については、年度初めに学生に配布する「履修の手引き-開講科目教科内容-」に各教科の評価方法を記載し、初回授業においても詳細を説明している。免許・資格を取得するという目的意識を持って勉学しているため、本学の学生の授業回数15回の出席率は、95%を超えている。ほとんどの学生が幼稚園教諭・保育士の免許・資格を取得し、さらに児童厚生員、認定ベビーシッター、社会福祉主事任用資格も取得している。(卒業生155名中、幼稚園教諭二種免許状144名、保育士130名、児童厚生二級指導員51名、認定ベビーシッター98名が取得)全学生のうち退学者は3名、休学者は1名である。単位取得状況および単位認定は教授会において、学期毎に成績報告会を開催し、確認している。関西学院大学教育学部および人間福祉学部との間に指定校推薦編入学制度を設けている。 |
| ★ 小項目3.0.2 | 3.0.2 学生の卒業後評価への取組みの努力がみられること キャリアセンター分室の職員が前年度卒業生の就職先を訪問し、近況を聴取している。2010年度の進路決定状況は次のとおりである。(2010年度進路状況 <就職>幼稚園60名、保育所71名、福祉施設2名、公務員(行政)1名、企業1名、進学10名、その他7名、未決定3名) 取得資格を活用して就職した学生は、2010年度は全体の約85%であった。また、年に1度卒業生と教員が交流するホームカミングデーを開催しており、卒業生から現状報告だけでなく、在学時の学びが実際の保育においてどのように役立っているか否かについて直接聞くなど、教育効果を確認する場ともなっている。 |
| その他 | |

《評価指標データ》

- ☆
- ☆
- ☆

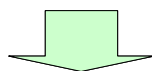
| | |
|--|--|
| | |
|--|--|

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

| | |
|------------|---|
| 小項目3.0.1 | 将来保育に関わる職業につきたいとの目的意識から、授業の出席、課題の提出など意欲的である。 |
| ☆ 小項目3.0.2 | キャリアセンター分室の職員が前年度卒業生の就職先を訪問し、近況を聴取しているので、就職先からの大まかな評価は把握している。 |
| その他 | |

【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策



注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

| | |
|------------|------------------------------------|
| 小項目3.0.1 | 授業担当教員の成績評価の状況について情報や意見を交換する機会をもつ。 |
| ☆ 小項目3.0.2 | 卒業生に関する評価や情報の内容について、聴取する項目等を検討する。 |
| その他 | |

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(2)】改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

| | |
|------------|---|
| 小項目3.0.1 | |
| ☆ 小項目3.0.2 | 就職先から聴取する卒業生に関する評価や情報の内容が統一されていない。編入先からの評価を得ていない。 |
| その他 | |

【次年度に向けた方策(2)】改善方策



注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

| | |
|------------|---|
| 小項目3.0.1 | |
| ☆ 小項目3.0.2 | 卒業生に関する評価や情報の内容について、聴取する項目等を検討する。編入生の評価について、聴取など実施する。 |
| その他 | |

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

| | |
|-----------------|--|
| ☆ その他 (自由記述) | |
|-----------------|--|

Ⅲ. 学内第三者評価

＜評価専門委員会の評価＞

【学外委員】

○前年度に「次年度に向けた方策・改善方策」に具体的にあげられたことについては、実際になされたのかどうか、その成果などについて記述が欲しいところです。例えば、「履修カルテ」の作成と実施効果などについて。一般的に教育系の大学や短期大学における同窓会の役割は大きいと聞いていますが、聖和短期大学の場合、どのような特色がありますか。同窓会との有効な連携を期待します。

○Ⅱ. 自己点検・評価（2010. 5. 1～2011. 4. 30の進捗状況報告）の進捗評価で、3. 評価方法の検討と進捗状況が、2009→2010がD評価で、進捗が見られないのは残念です。

○現状の説明で、小項目3. 0. 2で「キャリアセンター分室の職員が前年度卒業生の就職先を訪問し、近況を聴取している。」という実績があるので、このデータを「評価方法」として活用することを検討してみたいかでしょうか。

【学内委員】

○学生の卒業後評価への取り組みについて、課題があるようですが、進展が期待されます。

○授業評価アンケートを全科目、全学期に実施されているのですから、小項目3. 0. 1において、学生の満足度についての記述があれば好ましいと思います。

○昨年度、方策においてあげられた事柄が、どのような進展を見せたかがこの記述では不明です。これらを明らかにすることによってPDC Aが機能しているか検証できます。

○特に2年続けて同じ方策が示されているということは、改善が進んでいないということですから、何らかの記述が必要でしょう。繁忙な中で時間を設けて検討を行い、各種改善を行うことは難しいと思いますが、着実に改善されていくことを期待します。

○また、昨年度小項目3. 0. 1の改善方策において示された履修カルテは削除されていますが、実施されたのでしょうか。

○小項目3. 0. 2の現状説明において、専門就職の割合について記述をお願いします。

○伸ばさせるための事項、改善方法の記述において「機会を持つ」「検討する」などでは曖昧です。より具体的なものが望まれます。検討するについても、どこで、どこまで検討するのかなどの記述が必要でしょう。

○編入先との意見交換は行われているのでしょうか。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ 現状説明3. 0. 1に次の文章を追加する。「2011年度実施に向けて履修カルテ（案）を作成した。授業評価アンケートは全科目にわたり実施し、結果を教員に配付している。」現状説明3. 0. 2を次の文章と差し替える。「キャリアセンター分室の職員が前年度卒業生の就職先を訪問し、近況を聴取している。2010年度の進路決定状況は次のとおりである。（2010年度進路状況 幼稚園60名（38.7%）、保育所71名（47.3%）、福祉施設2名（0.12%）、公務員（行政）1名（0.06%）、企業1名（0.06%）、進学10名（0.64%）、その他7名（0.45%）、未決定3名（0.19%）取得資格を活用して就職した学生は、2010年度は全体の約85%であった。また、年に1度卒業生と教員が交流するホームカミングデーを開催しており、卒業生から現状報告だけでなく、在学時の学びが実際の保育においてどのように役立っているか否かについて直接聞くなど、教育効果を確認する場ともなっている。」

進捗状況報告シート

(2011年度・聖和短期大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

| | |
|------|---|
| 対象部局 | 聖和短期大学 |
| 大項目 | 4 学生支援 |
| 中項目 | |
| 小項目 | 4.0.1 入学に関する支援が行われていること |
| 要素 | 短期大学案内には建学の精神・教育理念や教育目的・教育目標、望ましい学生像等が明示されているか。 募集要項には入学者選抜の方針、多様な選抜方法（推薦、一般、AO選抜等）が分かりやすく記載されているか。 広報もしくは入試事務の体制が整備され、受験生の問い合わせ等に対して適切に対応できているか。 多様な選抜が公正かつ正確に実施されているか。 入学手続き者に対し入学までに授業や学生生活についての情報を提供できているか。 入学者に対し学習、学生生活のためのオリエンテーションは適切に行われているか。 |
| 小項目 | 4.0.2 学習支援が組織的に行われていること |
| 要素 | 特に学習の動機づけに焦点をあわせた学習や科目選択のためのガイダンス等が適切に行われているか。 学生便覧等、学習支援のための印刷物が発行されているか。またそれらの印刷物は学生に理解しやすいものとなっているか。 基礎学力が不足する学生に対し、補習授業等の学習支援に対する組織的な取組みに努めているか。 学習上の悩みなどの相談にのり、適切な指導助言を行う体制が整備されているか。 進度の早い学生や優秀学生に対する学習上の配慮や学習支援を行っているか。 |
| 小項目 | 4.0.3 学生生活支援体制が整備されていること |
| 要素 | 生活支援のための教職員の組織（学生指導、厚生補導等）が整備されているか。 クラブ活動、学園行事、学友会など、学生が主体的に参画する活動が活発に行われ支援体制も確立しているか。 休息空間、保健室、学生相談室、食堂、売店の設置等、学生のキャンパス・アメニティへの配慮は充分か。 宿舎が必要な学生に適切な支援（学生寮、宿舎の斡旋等）は行われているか。また通学のための便宜（通学バスの運行、駐輪場・駐車場の設置等）は図られているか。 奨学金等、学生への経済的支援のための制度は用意されているか。 学生の健康管理、メンタルケアやカウンセリングの体制は整っているか。 学生個々の記録が作成されているか。またその記録は適切に保管されているか。 学生生活に関して学生の意見や要望の聴取に努めているか。 |
| 小項目 | 4.0.4 進路支援が行われていること |
| 要素 | 就職支援のための教職員の組織が整備され適切に活動しているか。 就職支援室等が完備され、学生に必要な情報が提供できているか。 就職のための資格取得、就職試験対策などの支援はなされているか。 就職内定率（3/31現在）は十分な水準か。 その他、進学、留学に対する支援は充分になされているか。 |
| 小項目 | 4.0.5 多様な学生に対する特別な支援が行われていること |
| 要素 | 留学生の学習（日本語教育等）及び生活を支援する体制は整っているか。 社会人学生の学習を支援する体制は整っているか。 障害者の受入れが可能な施設を整備する等、障害者への支援体制は整っているか。 長期履修生を受入れる体制は整っているか。 |

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。
進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

| 2009年度に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 進捗評価 | | | | |
|---|--|------|------|------|------|------|
| | | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
| 1. 受験生が理解しやすく魅力を感じる大学案内パンフレット、ホームページ等、広報の検討 | →大学案内パンフレット、ホームページの作成に在学生や卒業生の意見、アイデアを取り入れる。 | C | B | | | |
| 2. 入学までの情報提供および入学前教育の充実 | →入学予定者対象パンフレットの再検討、ピアノの実技能力向上のためのプログラムの検討 | D | C | | | |
| 3. アンケート調査などによる学生生活の現状把握 | →在学生を対象として学生生活全般に対するアンケート調査の実施および課題の分析の進捗状況 | D | D | | | |
| 4. 進路選択時の情報提供を徹底し、アドバイザー制度の活用を推進する | →「進路希望調査カード」の再検討の進捗状況、アドバイザーへの相談および指導内容の分析 | C | C | | | |

☆

| 2010年度以降に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
|-------------------|-----------|------|------|------|------|------|
| なし | →なし | | | | | |
| なし | →なし | | | | | |

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

| | |
|------------|---|
| 小項目4.0.1 | <p>4.0.1 入学に関する支援が行われていること</p> <p>入試事務全般、入試広報業務、入学志願者への対応（相談窓口）すべてを短期大学事務室が行っている。入学に関する支援を実施するために、受験生が理解しやすく魅力を感じる大学案内パンフレット、ホームページを作成している。新たな広報として、オープンキャンパスの案内を三宮駅大阪駅に液晶掲示板で掲出するなど新たな取り組みをした。入学手続き者に対して、授業や学生生活についての情報を「入学手続きの手引き」「入学までのご案内」を送付し、入学前教育（課題図書の設定、ピアノの経験の少ないものに対するピアノレッスン、さらに漢字検定2級程度の学習をするように促し、入学後テストを実施）やオリエンテーションプログラム、奨学金等について情報を提供している。</p> <p>新入生の学習・学生生活を支援するためにオリエンテーションウィークを設定している。主なプログラムとしては、「要覧」に基づき学生生活を始めるにあたっての注意事項の説明、履修指導および履修相談、図書館や学生支援相談室等施設の利用について説明を行っている。またフレッシュマンキャンプではキャンパス案内を兼ねたオリエンティングや2年生との交流も行っている。</p> |
| 小項目4.0.2 | <p>4.0.2 学習支援が組織的に行われていること</p> <p>新入生に対しては、入学時のオリエンテーションの中で「要覧」と「履修の手引き・開講科目教科内容」に基づき履修指導、履修相談などのプログラムを行っている。また、2年生に対しては前年度末に履修指導を行っている。またアドバイザー制度を利用して個別相談にも対応している。学年毎の担当者会を定期的に行い、情報の共有と連携を図っている。特に学生の実習を支援するために正規の授業の内容を補うために個別に添削するなどきめこまやかな指導を行っている。</p> |
| ★ 小項目4.0.3 | <p>4.0.3 学生生活支援体制が整備されていること</p> <p>学生生活支援については、学生主任の下に学生担当教員を2名配置し、検討すべき案件については定期的に行われる学長室会で協議している。学生の健康管理、奨学金、学生寮、食堂等キャンパスアメニティについては、キャンパス事務室と連携し、検討すべき案件についてはキャンパス連絡協議会で協議している。学生への経済的支援のための制度として、新規貸与奨学金制度（入学前貸与奨学金制度・緊急時貸与奨学金制度）の検討に入った。メンタル面のケアとして学生相談室があり1名の職員がいる。健康面でのケアとして、保健館分室があり、1名の専任と1名のアルバイト計2名の職員がいる</p> |
| 小項目4.0.4 | <p>4.0.4 進路支援が行われていること</p> <p>就職支援のための教職員の組織として、聖和キャンパス就職委員会の下に短期大学就職支援部会が置かれ、キャリアセンター分室と連携して支援を行っている。2年生のアドバイザー8名が部会委員を兼ね、個別の進路相談を担当し、また定期的に委員会を開催して短期大学全体の進路支援にあっている。この会議にはキャリアセンター分室の職員が出席し情報を共有している。キャリアセンター分室は、「就職の手引き」を作成、配布し、就職支援プログラム（2年生対象13回、1年生対象5回）を開催している。また希望者には公務員試験対策講座も実施している。分室には求人票や個別園ファイル、情報誌等の資料、インターネットが整備され、またカウンターでも相談を受け付ける等、いつでも利用できるようになっている。今年度の就職については、就職を希望する者の98%の決定率となった。また進学については、関西学院大学の2学部への指定校推薦編入制度を設けるなどの支援を行っている。（2010年度進路状況 <就職> 幼稚園60名、保育所71名、福祉施設2名、公務員（行政）1名、企業1名、進学10名、その他7名、未決定3名）</p> |
| 小項目4.0.5 | <p>4.0.5 多様な学生に対する特別な支援が行われていること</p> <p>留学生、社会人等が在学していないため、多様な学生に対する特別な支援は行われていない。長期履修生に対しては、アドバイザー等が連絡をとるなど、受け入れる体制は整っている。キャンパス全体でバリアフリー化を図った。</p> |
| その他 | |

《評価指標データ》

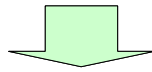
| | |
|---|--|
| ★ | |
| ★ | |
| ★ | |

◎**効果が上がっている事項** ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(1)】**効果が上がっている事項** 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

| | |
|-----------|---|
| 小項目4.0.1 | 入学者に対して入学前教育や入学後の情報提供については充実してきている。 |
| 小項目4.0.2 | |
| 小項目4.0.3 | 経済的に困難な状況にある学生が年々増加傾向にあるため、新たな奨学金制度の導入について検討を進めている。 |
| ★小項目4.0.4 | |
| 小項目4.0.5 | |
| その他 | |

【次年度に向けた方策(1)】**伸長させるための方策**



注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

| | |
|-----------|---|
| 小項目4.0.1 | 入学前教育の課題図書の内容、ピアノの実技能力向上のためのプログラム等について、また手引きや案内等をさらに改善する。 |
| 小項目4.0.2 | |
| 小項目4.0.3 | 新たな奨学金制度の導入に向けて、諸規程を整備する。 |
| ★小項目4.0.4 | |
| 小項目4.0.5 | |
| その他 | |

◎**改善すべき事項** ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(2)】**改善すべき事項** 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

| | |
|-----------|--|
| 小項目4.0.1 | 大学案内パンフレット、ホームページなどについて在学生や卒業生や高校生等からの意見の聴取が十分にできていない。 |
| 小項目4.0.2 | 学生気質の変化等に対応した多様な学習支援について、個別的な対応はできているが短期大学全体での検討ができていない。 |
| 小項目4.0.3 | 学生生活に関する学生の意見や要望について、組織的に聴取していない。 |
| ★小項目4.0.4 | |
| 小項目4.0.5 | 多様な学生に対する特別な支援体制が十分にできていない。 |
| その他 | |

【次年度に向けた方策(2)】**改善方策**



注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

| | |
|-----------|--|
| 小項目4.0.1 | オープンキャンパスなどで、高校生の意見を聴取する。 |
| 小項目4.0.2 | 多様な対応ができるように、学生支援体制を充実させる。 |
| 小項目4.0.3 | 在学生を対象として学生生活全般に対するアンケート調査の実施および課題を分析し検討をする。 |
| ★小項目4.0.4 | |
| 小項目4.0.5 | 留学生や障害者への特別な支援体制を検討する。 |
| その他 | |

◎**自由記述**

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

| | |
|----------------|--|
| ★その他 (自由記述) | |
|----------------|--|

Ⅲ. 学内第三者評価

＜評価専門委員会の評価＞

【学外委員】

○入学前教育の実施がかなり具体的に進んでいることが評価できます。「メンタルケアとして学生相談があり」と記されていますが、それは、心理相談の専門の方がいる、いわゆる心理相談室のことですか。日常的な学生生活や学習相談体制との関係が判りにくいところがあります。小項目4.0.5に「長期履修生に対しては、アドバイザー等が連絡をとるなど受け入れる体制は整っている」とありますが、そのために必要な規定整備もすでになされていますか。

○2009年度に設定した「目標」「3. アンケート調査などによる学生生活の現状把握」の進捗評価が2009→2011でD評価であるのは改善することが望まれます。

○小項目4.0.1「オープンキャンパスの案内を三宮駅大阪駅に液晶掲示板で掲出する」とあるのは、阪急電車なのかJRなのかが分かりません。推測すれば、「大阪駅」という駅名はJRしかないのがJRなのでしょう。しかし、通学に便利なのは阪急電車でありますね。

○用語の統一では、《現状の説明》小項目4.0.1「短期大学事務室」とあり、小項目4.0.4では「聖和キャンパス就職委員会の下に短期大学就職支援部会」とあるという説明になっています。「聖和キャンパス」が上部組織で短期大学は下部組織のように読み取れます。

【学内委員】

○学生支援について、着実な活動が行われており、評価できます。

○昨年度、方策においてあげられた事柄が、どのような進展を見せたかがこの記述では不明です。これらを明らかにすることによってPDCAが機能しているか検証できます。

○特に2年続けて同じ方策が示されているということは、改善が進んでいないということですから、何らかの記述が必要でしょう。繁忙な中で時間を設けて検討を行い、各種改善を行うことは難しいと思いますが、着実に改善されていくことを期待します。

○また、昨年度小項目4.0.4の改善方策において示された進路希望調査カードは削除されています。実施されたのでしょうか。

○伸ばさせるための事項、改善方法の記述において「充実させる」「検討する」などでは曖昧です。より具体的なものが望まれます。検討するについても、どこで、どこまで検討するのかなどの記述が必要でしょう。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

現状説明4.01を次の文章と差し替える。「入試事務全般、入試広報業務、入学志願者への対応（相談窓口）すべてを短期大学事務室が行っている。入学に関する支援を実施するために、受験生が理解しやすく魅力を感じる大学案内パンフレット、ホームページを作成している。新たな広報として、オープンキャンパスの案内をJR三宮駅・大阪駅に液晶掲示板で掲出するなど新たな取り組みをした。入学手続き者に対して、授業や学生生活についての情報を「入学手続きの手引き」「入学までのご案内」を送付し、入学前教育（課題図書の設定、ピアノの経験の少ないものに対するピアノレッスン、さらに漢字検定2級程度の学習をするように促し、入学後テストを実施）やオリエンテーションプログラム、奨学金等について情報を提供している。

★ 新入生の学習・学生生活を支援するためにオリエンテーションウィークを設定している。主なプログラムとしては、「要覧」に基づき学生生活を始めるにあたっての注意事項の説明、履修指導および履修相談、図書館や学生支援相談室等施設の利用について説明を行っている。またフレッシュマンキャンプではキャンパス案内を兼ねたオリエンティングや2年生との交流も行っている。」現状説明4.0.3を次の文章と差し替える。

「学生生活支援については、学生主任の下に学生担当教員を2名配置し、検討すべき案件については定期的開催される学長室会で協議している。学生の健康管理、奨学金、学生寮、食堂等キャンパスアメニティについては、キャンパス事務室と連携し、検討すべき案件についてはキャンパス連絡協議会で協議している。学生への経済的支援のための制度として、新規貸与奨学金制度（入学前貸与奨学金制度・緊急時貸与奨学金制度）の検討に入った。メンタル面のケアとして学生相談室があり1名の心理専門の職員がいる。健康面でのケアとして、保健館分室があり、1名の専任と1名のアルバイト計2名の職員がいる」現状説明4.0.4を次の文章と差し替える。「進路支援に関しては、聖和キャンパス就職委員会の下に短期大学就職支援部会が置かれ、キャリアセンター分室と連携して支援を行っている。2年生のアドバイザー8名が部会委員を兼ね、個別の進路相談を担当し、また定期的に委員会を開催して短期大学全体の進路支援にあたっている。この会議にはキャリアセンター分室の職員が出席し情報を共有している。キャリアセンター分室は、「就職の手引き」を作成、配布し、就職支援プログラム（2年生対象13回、1年生対象5回）を開催している。また希望者には公務員試験対策講座も実施している。

今年度の就職については、就職を希望する者の98%の決定率となった。また進学については、関西学院大学の2学部への指定校推薦編入制度を設けるなどの支援を行っている。（2010年度進路状況 幼稚園60名、保育所71名、福祉施設2名、公務員（行政）1名、企業1名、進学10名、その他7名、未決定3名）」

進捗状況報告シート

(2011年度・聖和短期大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

| | |
|------|--|
| 対象部局 | 聖和短期大学 |
| 大項目 | 5 研究 |
| 中項目 | |
| 小項目 | 5.0.1 教員の研究活動が展開されていること |
| 要素 | 教員の研究活動（論文発表、学会活動、国際会議出席等、その他）は成果をあげているか。 教員各個人の研究活動の状況が公開されているか。 科学研究費補助金等の申請・採択、研究費の外部からの調達は実績があがっているか。 教員あるいは教員グループの担当授業科目に関する研究や教育実践及びその成果についての報告が奨励されているか。 |
| 小項目 | 5.0.2 研究活動の活性化のための条件整備が行われていること |
| 要素 | 教員の研究に係る経費の支出は充分か。また研究経費についての規程が整備されているか。 教員の研究成果を発表する機会（研究紀要の発行等）は確保されているか。 教員の研究に係る機器、備品、図書等は充分か。 教員が研究を行うにふさわしい教員室、研究室または研修室が整備されているか。 教員には研究日（研修日）等、教員が研究を行うに十分な時間の確保に配慮がされているか。 |

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

| 2009年度に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 進捗評価 | | | | |
|------------------------|-------------------------------|------|------|------|------|------|
| | | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
| 1. 学内研究会の設立および研究会活動の推進 | →研究会の設置状況、研究会規約等の制定状況、研究会実施状況 | C | B | | | |
| 2. 研究紀要の発行（年一回発行） | →研究紀要の発行状況、発行回数 | C | B | | | |
| 3. 科研費等による研究の奨励 | →科研費等による研究への応募および採択状況 | C | C | | | |

☆

| 2010年度以降に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
|-------------------|-----------|------|------|------|------|------|
| なし | →なし | | | | | |
| なし | →なし | | | | | |

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

| | |
|------------|---|
| 小項目5.0.1 | 5.0.1 教員の研究活動が展開されていること 教員の研究活動については、『聖和論集』に6名の教員が投稿しており、担当授業に関する研究や教育実践およびその成果については、日本保育学会や全国保育士養成協議会研究大会、聖和保育教育研究会等で積極的に発表されている。各個人の研究活動状況はホームページにて公開している。今年度は科学研究費補助金の申請はなかったが、全国保育士養成協議会ブロック研究補助による研究が採択された。 |
| ☆ 小項目5.0.2 | 5.0.2 研究活動の活性化のための条件整備が行われていること 2010年2月に15名で発足した聖和保育教育研究会は、聖和幼稚園教諭等の入会で現在22名の会員数となった。2011年2月には第1回研究発表会を開催し、4名が発表した。また『聖和論集』第2号を発行した。キリスト教教育保育センターにおける研究活動としては、研究会を3回開催し、研究員による発表を行った。研究活動の活性化のための条件整備としては、研究経費についての規程が整備され、年度末に研究報告および次年度の研究計画の提出が義務づけられている。 |
| その他 | |

《評価指標データ》

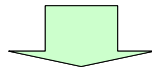
| | |
|---|--|
| ☆ | |
| ☆ | |
| ☆ | |

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

| | |
|-----------|---|
| 小項目5.0.1 | 所属学会や全国保育士養成協議会で積極的に発表されている。 |
| ☆小項目5.0.2 | 研究会の設立により各教員の研究への意欲が促進され、論集投稿への積極的な姿勢が見られるようになった。 |
| その他 | |

《次年度に向けた方策(1)》伸長させるための方策



注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

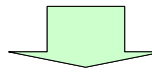
| | |
|-----------|---------------------|
| 小項目5.0.1 | 年度始めに研究計画書を作成してもらう。 |
| ☆小項目5.0.2 | 研究発表会の開催および論集投稿への奨励 |
| その他 | |

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

| | |
|-----------|------------------------|
| 小項目5.0.1 | 科研費等、外部からの研究費への応募が少ない。 |
| ☆小項目5.0.2 | |
| その他 | |

《次年度に向けた方策(2)》改善方策



注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

| | |
|-----------|-------------------------------|
| 小項目5.0.1 | 外部からの研究費調達に関する情報収集および応募支援の充実。 |
| ☆小項目5.0.2 | |
| その他 | |

◎自由記述

《点検・評価》&《次年度に向けた方策》

| | |
|----------------|--|
| ☆その他 (自由記述) | |
|----------------|--|

Ⅲ. 学内第三者評価

＜評価専門委員会の評価＞

【学外委員】

○外部からの研究費の獲得がまだ不十分だとしても合併後の研究条件の各種整備を通して、研究会および各教員の研究活動が確実に活性化していることは評価できます。各個人の研究は本来当たり前のことですので、さらに学内の研究基盤を固めるために、短期大学内での共同研究に対する助成制度を設けてはどうでしょうか。

○短期大学の教員方は、授業・実習訪問・会議等で多忙であることは理解できます。

○教員・授業・事務・会議・学生が学校を支えています、その水準を上げるのは研究ですから自分の授業内容について研究をする意欲を持ってほしい。

○学内等の独自の研究会や研究誌を発行していることは好ましいと思います。

○科研費等の学外研究費の獲得は財政状態が逼迫している状態ではますます重要になってきますので、どのような研究募集があるか。事務局に来た募集要項等を事務局員教員全体で探し、積極的に応募するように体制を整えてほしい。

○外部研究費申請のための事務手続きや申請書の書き方に専門的アドバイスができる教員、職員を養成し、申請する教員を支援する体制が望まれます。

【学内委員】

○研究活動の活性化が見られ、評価できます。

○着実に研究活動のための環境が整備され、活動が展開されています。教育に多くの時間を要する短期大学において研究活動を展開することは困難なことも多いでしょうが、努力に期待します。

○昨年度の評価者の指摘にもあったように、学会などでの発表数、論文発表数が具体的に経年で示されることが求められます。科研費や外部研究費などの採択状況も含め、一覧表を本シートに貼り付けられてはどうでしょう。

○昨年度、方策においてあげられた事柄が、どのような進展を見せたかがこの記述では不明です。これらを明らかにすることによってPDCAが機能しているか検証できます。

○特に2年続けて同じ方策が示されているということは、改善が進んでいないということですから、何らかの記述が必要でしょう。繁忙な中で時間を設けて検討を行い、各種改善を行うことは難しいと思いますが、着実に改善されていくことを期待します。

○改善すべき事項の小項目5.0.2における記述「法人の利用」の意味がつかめません。ご説明ください。

○改善方法の記述において「充実」だけでは曖昧です。より具体的なものが望まれます。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ なし

進捗状況報告シート

(2011年度・聖和短期大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

| | |
|------|--|
| 対象部局 | 聖和短期大学 |
| 大項目 | 6 社会的活動 |
| 中項目 | |
| 小項目 | 6.0.1 社会的活動への取組みが推進されていること |
| 要素 | 社会的活動についての位置づけが明確にされているか。 社会人の受け入れに対して意欲的か。 地域社会に向けた公開講座、生涯学習授業、正規授業の開放等を実施しているか。 地域社会の行政、商工業、教育機関、文化団体等と効果的な交流活動を行っているか。 |
| 小項目 | 6.0.2 学生の社会的活動を促進していること |
| 要素 | ボランティア活動等を通じて地域社会に貢献しているか。 学生の社会的活動(地域活動、地域貢献、ボランティア活動等)に対して積極的に評価しているか。 |
| 小項目 | 6.0.3 国際交流・協力への取組みの努力がみられること |
| 要素 | 留学生の受け入れ及び留学生の派遣(長期・短期)に対して意欲的か。 海外教育機関等との密接な双方向的交流を継続しているか。 教職員の留学、海外派遣、国際会議出席等は活発か。 |

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

| 2009年度に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 進捗評価 | | | | |
|---|-------------------------------------|------|------|------|------|------|
| | | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
| 1. 卒業生および保育者を対象とした研修会等の開催 | →研修会等の実施状況 | C | B | | | |
| 2. 地域の子育て家庭を対象としたオープンセミナー聖和キャンパス講座(幼児教育大学)の開催(教育学部、聖和幼稚園との共催) | →オープンセミナー実施状況 | C | B | | | |
| 3. 「関西学院子どもセンター」における発達支援事業、子ども子育て支援事業、おもちゃとえほんのへや事業の充実 | →「関西学院子どもセンター」事業の活動状況、学生ボランティアの活動状況 | D | C | | | |
| | | ★ | | | | |
| 2010年度以降に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
| なし | →なし | | | | | |
| なし | →なし | | | | | |

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

| | |
|------------|--|
| 小項目6.0.1 | 6.0.1 社会的活動への取組みが推進されていること 従来のSEIWAサマーセミナーを再検討し、今年度より「聖和短期大学夏の研修会」として新たにスタートさせた。テーマ「群れ遊びで子どもが育つ一心の『自然』を解放して生きる力に」。講師は中川香子聖和短期大学教授。卒業生、近隣の幼稚園、保育所、施設の現職保育者65名が参加。また関西学院大学オープンセミナー聖和キャンパス講座を教育学部と共催で開催した。テーマ「幼少期における自然教育の重要性」講師は出原大聖和幼稚園園長。 |
| ★ 小項目6.0.2 | 6.0.2 学生の社会的活動を促進していること 聖和幼稚園の預かり保育、同園で実施している病弱児保育、関西学院子どもセンターの発達支援事業および子ども・子育て支援事業、「神戸市民福祉振興教会主催の障害児ファミリーデイキャンプ、全国心臓病の子どもを守る会兵庫県支部主催のサマーキャンプなど、多くの学生が自主的にボランティア活動に参加し貢献している。また、幼稚園、保育所、施設の行事などのボランティア募集の案内を掲示し、活動を促している。 |
| 小項目6.0.3 | 6.0.3 国際交流・協力への取組みの努力がみられること 留学生の受け入れ及び留学生の派遣に対しての申し出がなかった。教職員の留学、海外派遣などはなかった。教員養成、保育士養成科目を担当する教員は留学することが難しいのが現状である |
| その他 | |

《評価指標データ》

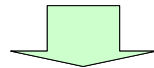
| | |
|---|--|
| ☆ | |
| ☆ | |
| ☆ | |

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

| | |
|----------|--|
| 小項目6.0.1 | 「聖和短期大学夏の研修会」では、卒業生を含む幼稚園や保育所、児童福祉施設からも多くの参加があり、保育者の研修の場として一定の役割を果たしている。 |
| 小項目6.0.2 | 教員が授業などを通して、ボランティアへの積極的な参加を呼びかけにより、多くの学生がボランティア活動に参加している。 |
| 小項目6.0.3 | |
| その他 | |

【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策



注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

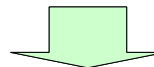
| | |
|----------|-----------------------------|
| 小項目6.0.1 | |
| 小項目6.0.2 | ボランティア活動の意義についてのしおりの内容を検討する |
| 小項目6.0.3 | |
| その他 | |

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

| | |
|----------|--|
| 小項目6.0.1 | 幼稚園、保育所における研修が強化、義務化されることに合わせ、現場のニーズに沿ったより有効な研修会のあり方、内容を検討する必要がある。 |
| 小項目6.0.2 | ボランティア活動実施のための支援体制が整っていない。 |
| 小項目6.0.3 | |
| その他 | |

《次年度に向けた方策(2)》改善方策



注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

| | |
|----------|---|
| 小項目6.0.1 | 単発の講演会形式だけでなく、継続的な学びの場を要望する声が多いので検討する必要がある。 |
| 小項目6.0.2 | ボランティア活動実施のための支援体制の整備。 |
| 小項目6.0.3 | |
| その他 | |

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

| | |
|---|---------------|
| ☆ | その他 (自由記述) |
|---|---------------|

Ⅲ. 学内第三者評価

＜評価専門委員会の評価＞

【学外委員】

○多くの学生がボランティア活動に参加しているようですが、参加人数およびその活動の実態や成果を把握するために組織的な体制が作られていることが教育的にも、危機管理的にも大切だと思います。

○国際交流として、「留学生の受け入れ及び留学生の派遣」に申込みがないことに対して教員はどのように関わっているのでしょうか、

○また、「教職員の留学、海外派遣など」留学することが難しいという現状に対しては「研究休暇制度（サバティカル）」等を整備して、利用することが望まれます。

○「ボランティア活動のための支援体制の整備。」は、自主的な活動とはいえ、学校として「《次年度に向けた方策（2）》改善方策」に書かれているように、「教員が引率する」とか「バスを出す」とかの支援をすることが必要になってきますね。

【学内委員】

○社会的活動への取り組みがなされており、評価されます。国際交流について、どのような可能性があるか、検討が期待されます。

○積極的な社会的活動の様子が伺えます。継続した活動に期待します

○昨年度、方策において「再検討する」などとされた事柄が、どのような進展を見せたかが不明なものがあります。目標の進捗状況にも繋がりますので、これらが分かるような記述であればなお好ましいと思います。そうすることによって、PDCAが機能しているか検証できます。

○しよりの内容検討、継続的な学びの場、ボランティア活動実施のための支援体制が2年続けてあげられていますが、なかなかすぐには改善できないことかと思えます。継続的な検討に期待するとともに、検討経過について現状説明があればなお分かりやすい報告書になると思います。

○数字だけが成果を図るものではありませんが、他のシートでも同様、数量的に示せるものは経年で表にして本シートに貼り付ければどうでしょう。例えば、公開講座の経年の参加者数などです。目標の指標でもあります。

○ボランティア活動の実態を把握することは困難ですが、できるだけ把握されることを期待します。参加回数などの説明に期待します。

○伸ばさせるための事項、改善方法の記述において「検討する」「奨励する」などでは曖昧です。より具体的なものが望まれます。検討するについても、どこで、どこまで検討するのかなどの記述が必要でしょう。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ 現状説明6.0.1に次の文章を追加する。「地域の子育て家庭等82名が参加。」

進捗状況報告シート

(2011年度・聖和短期大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

| | |
|------|--|
| 対象部局 | 聖和短期大学 |
| 大項目 | 7 管理運営 |
| 中項目 | |
| 小項目 | 7.0.1 理事会等の学校法人の管理運営体制が確立していること |
| 要素 | 学校法人の運営全般に理事長のリーダーシップが適切に発揮されているか。 理事会は寄附行為の規定に基づいて開催され、学校法人の意思決定機関として適切に運営されているか。 監事は寄附行為の規定に基づいて適切に業務を行っているか。 評議員会は寄附行為の規定に基づいて開催され、理事会の諮問機関として適切に運営されているか。 理事の構成に著しい偏りがないか。 |
| 小項目 | 7.0.2 教授会等の短期大学の運営体制が確立していること |
| 要素 | 短期大学の運営全般に学長のリーダーシップが適切に発揮されているか。 教授会は学則等の規定に基づいて開催され、短期大学の教育研究上の審議（諮問）機関として適切に運営されているか。 学長もしくは教授会のもとに教育上の委員会等が設置され、規程に基づいて適切に運営されているか。 |
| 小項目 | 7.0.3 事務組織が整備されていること |
| 要素 | 短期大学の事務部門の規模は適当か。また事務職員の任用は適切に行われているか。 短期大学の事務部門は事務諸規程等を整備し、それらの規程に基づいて適切に業務を行っているか。 事務処理のための事務室、情報機器、施設・備品等は整備されているか。 決裁規程に従って決裁処理が適正に行われているか。また公印や重要書類・データの管理、防災対策、情報システムのセキュリティ対策は適切か。 事務職員及びその組織は学生から支持され信頼されているか。 事務部門にSD活動等を行う組織を設け、日常的に業務の見直しや事務処理の改善に努力しているか。具体的には事務職員の能力開発、事務能力の向上のため内部研修、外部への研修が活発に行われているか。 |
| 小項目 | 7.0.4 人事管理が適切に行われていること |
| 要素 | 学校法人は教職員の就業に関する規程（就業規則、給与規程等）を整備し、それらを教職員に周知するとともにそれらの規程に基づいて適正に処理しているか。 学校法人（理事長、理事会）と教職員は、互いの立場を尊重しつつ協力する体制が整っているか。 教員と事務職員が互いの立場を尊重しつつ緊密に連携する雰囲気が醸成されているか。 教職員の健康管理、就業環境の改善、就業時間の順守等は配慮されているか。 |

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

| 2009年度に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 進捗評価 | | | | |
|--|--------------------------------------|------|------|------|------|------|
| | | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
| 1. 学長、学生主任、教務主任の各業務内容の整理および専決事項の策定。 | →学長、学生主任、教務主任の各業務内容の整理、専決事項の検討及び策定状況 | C | B | | | |
| 2. 短期大学事務室体制への移行に伴う業務の整理、事務体制の再整備。 | →業務整理、体制の再整備の進捗状況、ミーティングの実施状況 | C | B | | | |
| 3. 執行部と事務室の連携を促進、強化するための学長室会の定期的開催、教員と職員合同の研修会の開催。 | →学長室会の開催状況、教員と職員合同の研修会の開催状況 | C | B | | | |
| | | | ☆ | | | |
| 2010年度以降に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
| なし | →なし | | | | | |
| なし | →なし | | | | | |

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

| | |
|-----------|--|
| 小項目 7.0.1 | <p>7.0.1 理事会等の学校法人の管理運営体制が確立していること</p> <p>①学校法人関西学院の理事長は、寄附行為第8条に「理事長は、この法人を代表し、その業務を総理する」と定められている。また、寄附行為第10条および第11条にもとづき、常務理事1名および理事長が推薦した常任理事3名を理事会が選任して、理事長の指示に従い業務を処理し理事長を補佐する体制としている。</p> <p>②学校法人関西学院の理事会は、寄附行為第13条に「理事会は、学校法人の業務を決し」と定めており、寄附行為施行細則第9条に定期理事会は毎月1回、臨時理事会は理事長が必要と認めた場合に開催することと定めている。2010年度は、定期理事会を11回、臨時理事会を3回、合計14回開催した。</p> <p>③学校法人関西学院の監事の職務は、寄附行為第17条に次の項目が定められている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法人の業務を監査 ・法人の財産の状況を監査 ・監査報告書を作成し提出 ・不正行為または法令・寄附行為に違反する重大事実を発見したときに文部科学大臣に報告 ・理事会および評議員会に出席し意見を陳述 <p>監事は4名（非常勤）であり、名誉教授（監査論）、弁護士、公認会計士・税理士、元常任理事と各分野の専門家を選任している。また、監事は理事会に毎回出席し学長、高等部長等から各学校の学事その他について資料を配付され説明を聞くとともに、実地監査として学校に直接出向き学校長等から意見聴取等を行っている。さらに、監事会議に内部監査人が出席するとともに、内部監査人が年2回作成する内部監査報告書を監事および独立監査人に提供して、監事監査の支援・充実をはかっている。</p> <p>④学校法人関西学院の評議員会は、寄附行為施行細則第15条に毎年4回開催することと定められており、2010年度は計5回開催した。評議員会の役割として、寄附行為第22条に定めるとおり、学校の設廃、予算・事業計画、決算・事業実績、借入金、基本財産・積立金の処分、寄附行為変更、合併等について、理事会で協議する前に評議員会の同意を得ている。また、寄附行為第23条に定めるとおり、寄附金品募集、剰余金処分、寄附行為施行細則、その他重要事項について、理事会で協議する前に評議員会の意見を聴取している。</p> <p>なお、評議員（45名）は、寄附行為第19条に次のとおり定められている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学内の役職者〔1～3号〕3名（院長、学長、中学部長） ・福音主義の教役者〔4号〕4名 ・在日宣教師〔5号〕4名 ・同窓会員〔6号〕10名 ・在学者父母・保護者〔7号〕2名 ・学識経験者〔8号〕2名 ・教職員選出〔9号〕15名 |
| 小項目 7.0.2 | <p>7.0.2 教授会等の短期大学の運営体制が確立していること</p> <p>定例教授会を月1回（第2水曜日）、その他臨時教授会を適時開催し、2010年度は19回開催した。教授会では、学則等の規程に基づき適切に協議・審議を行っている。また教員は校務分掌をそれぞれ担当している。学長室会（学長、学生主任、教務主任、短期大学事務室課長および主任が出席）は、毎週1回、その他各学期末に一日を使い反省と評価を行う等、2010年度は47回開催した。これにより教授会と短期大学事務室の連携が図られ、2年目に入った新体制での運営も順調に進んでいる。</p> |
| 小項目 7.0.3 | <p>7.0.3 事務組織が整備されていること</p> <p>短大担当職員の配置については、業務の種類が多岐にわたっていることに比較すると人員は不足していると思われる。そのことにより、業務を適切に処理することで勤務時間が使われ、業務改善や研修に時間を割くことが難しい状況であるが、学内および学外での研修会には積極的に参加するよう努めている。2010年度は、短大教員と合同で「聖和短期大学の目指す人間像」をテーマに研修会を開催した。</p> |
| 小項目 7.0.3 | <p>7.0.4 人事管理が適切に行われていること</p> <p>人事管理については、就業規則にしたがって学長および短期大学担当課長が行っている。教員と事務職員の連携については概ね良好と思われる。</p> |
| その他 | |

《評価指標データ》

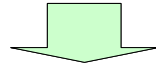
| | |
|---|--|
| ☆ | |
| ☆ | |
| ☆ | |

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

| | |
|------------|---|
| 小項目 7.0.1 | |
| 小項目 7.0.2 | 学長室会を定期的を開催し、学長、学生主任、教務主任の各業務内容、スケジュール等について確認を行い、概ね整備が進んでいる。 |
| ★小項目 7.0.3 | 公印管理、公文書の管理、データの管理等については概ね適切に管理できている。 職員の業務時間調整により年間2回の職場研修を実施することが出来た。 |
| 小項目 7.0.4 | 学長室会の中で教員と職員が緊密に連携して短期大学運営に努めている。 |
| その他 | |

【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策



注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

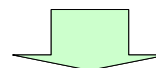
| | |
|------------|----------------------------|
| 小項目 7.0.1 | |
| 小項目 7.0.2 | すべての業務内容について精査し、さらに整備を進める。 |
| ★小項目 7.0.3 | 短期大学の決裁手順の確認と整備を行う。 |
| 小項目 7.0.4 | |
| その他 | |

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

| | |
|------------|---------------------------------|
| 小項目 7.0.1 | |
| 小項目 7.0.2 | |
| ★小項目 7.0.3 | 事務組織や職員が学生から支持されているかの検証が出来ていない。 |
| 小項目 7.0.4 | |
| その他 | |

《次年度に向けた方策(2)》改善方策



注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

| | |
|------------|--------------------------------|
| 小項目 7.0.1 | |
| 小項目 7.0.2 | |
| ★小項目 7.0.3 | 学生に対してアンケートをとり学生満足度調査の実施を検討する。 |
| 小項目 7.0.4 | |
| その他 | |

◎自由記述

《点検・評価》&【次年度に向けた方策】

| | |
|----------------|--|
| ★その他 (自由記述) | |
|----------------|--|

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

○比較的小規模な組織の場合各職員の業務が多岐にわたり、人員不足が起こりがちです。労基局との関連からも、その実状を、例えば残業の実態や時間管理のやり方等を一度見直してみることも必要かと思えます。そのことにより人員不足の有無がはっきりして、人員配置の改善にもつながることがあります。

○Ⅱ7.0.3「業務改善や研修に時間を割くことが難しい状況」とありますが、「学内および学外での研修会には積極的に参加」という、個人の努力にたよっている傾向が見られますが、組織として改善を図る方が効果が上がると思われま

【学内委員】

○管理運営について、おおむね円滑順調に行われているようです。

○理事会等管理運営体制は確立しています。

○着実に合併後の各種整備、新体制構築、意思疎通などが出来ている様子が伺えます。一層の整備努力に期待します。

○伸長させるための方策や改善方策において2年続けて掲げられてるものがありますが、なかなかすぐには改善できないことかと思えます。継続的な検討に期待するとともに、検討経過について現状説明があればなお分かりやすい報告書になると思えます。

○短期大学担当職員が何人配置されているか人数を示してください。

○伸長させるための事項、改善方法の記述において「さらに整備」「検討する」などでは曖昧です。より具体的なものが望まれます。検討するについても、どこで、どこまで検討するのかなどの記述が必要でしょう。

【事務的な指摘】

○学校法人関西学院の理事長は、寄附行為第8条に「理事長は、この法人を代表し、その業務を総理する」と定めている。→・・・定められている。

○教授会では、学則等の規程に基づき適切に協議・審議を行っている。→・・・、聖和短期大学教授会規程に基づき、・・・。

○学長室会の説明において、「・・・反省と評価等・・・」とありますが、「・・・各業務内容やスケジュール等の確認や各種案件について協議を行う等、・・・」の方が良いのではないのでしょうか。

○小項目7.0.3の現状説明において「・・・業務の種類が多岐にわたっていることに比較すると人員は不足していると思われる。そのことにより、業務を適切に処理することで勤務時間が使われ、業務改善や研修に時間を割くことが難しい状況・・・」は意味が通らないと思えます。「・・・わたっていることを考えると不足している。この人数で、定められた業務を処理すれば所定労働時間だけでは処理できず、業務改善や研修に時間を割くことが難しい状況・・・」などの表現ではないのでしょうか。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

現状説明7.01の①学校法人関西学院の理事長は、寄附行為第8条に「理事長は、この法人を代表し、その業務を総理する」と定めている。を・・・定められている。に変更する。

現状説明7.02を次の文章と差し替える「定例教授会を月1回（第2水曜日）、その他臨時教授会を適時開催し、2010年度は19回開催した。教授会では、聖和短期大学教授会規程に基づき適切に協議・審議を行っている。また教員は校務分掌をそれぞれ担当している。学長室会（学長、学生主任、教務主任、短期大学事務室課長および主任が出席）は、毎週1回開催し、各業務内容やスケジュール等の確認、各種案件について協議を行っている。各学期末には一日を使い反省と評価を行う等、2010年度は47回開催した。これにより教授会と短期大学事務室の連携が図られ、2年目に入った新体制での運営も順調に進んでいる。」

現状説明7.04について、「短期大学担当専任職員は5名配置されている。」を追記する。

進捗状況報告シート

(2011年度・聖和短期大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

| | |
|------|--|
| 対象部局 | 聖和短期大学 |
| 大項目 | 8 財務 |
| 中項目 | |
| 小項目 | 8.0.1 財務運営が適切に行われていること |
| 要素 | <p>学校法人及び短期大学は、中・長期計画に基づいた毎年度の事業計画と予算を、関係部門の意向を集約し、適切な時期に決定しているか。また、決定した事業計画と予算は速やかに関係部門に伝達しているか。</p> <p>年度予算は、適正に執行されているか。日常的な出納業務は円滑に実施され、所管担当責任者を経て理事長に報告されているか。</p> <p>決算終了後の計算書類、財産目録等は、法人の経営状況及び財政状態を適正に表示しているか。これに係る監事の機能は有効に働いているか。また、公認会計士の監査意見への対応は適切か。</p> <p>資産及び資金（有価証券を含む）の管理と運用については、資産等の管理台帳、資金出納簿などに適切な会計処理に基づいて記録され、安全かつ適正に管理されているか。また、寄付金の募集及び学校債の発行は適正か。</p> <p>月次試算表が毎月適時に作成され、財務担当責任者を経て理事長に報告されているか。</p> <p>改正私立学校法の規定に基づき、財務情報を適切に公開しているか。</p> |
| 小項目 | 8.0.2 財務体質が健全であること |
| 要素 | <p>学校法人及び短期大学の経営の状況（資金収支及び消費収支）は、評価を受ける過去3ヶ年にわたり均衡しているか。消費収支計算における収入超過または支出超過の状況について、その理由を把握しているか。</p> <p>学校法人の財政状態（貸借対照表）は健全に推移しているか。短期大学の経営状況が法人の財政にどのような影響を与えているかを把握しているか。</p> <p>短期大学の永続を可能とする学校法人の資金は、健全に維持されているか。余裕資金については、将来計画を見込んで目的別に引当資産化しているか。単に現預金の上に留保資金が集中していないか。</p> <p>短期大学の教育研究経費は、評価を受ける過去3ヶ年の平均が帰属収入の20%程度を超えているか。短期大学に係る教育研究用の施設設備及び学習資源（図書等）についての配分は適切か。</p> <p>財務体質は定員充足率いかににかかっており、過去3ヶ年の平均及び直近年度の充足は妥当か。過去3ヶ年の収容定員充足率に相応した財務体質を維持しているか。</p> |
| 小項目 | 8.0.3 短期大学に必要な施設設備が整備され、その管理が適切に行われていること |
| 要素 | <p>固定資産管理規程、図書管理規程、消耗品及び貯蔵品管理規程等の財務諸規程を含め整備し、施設設備、物品（消耗品、貯蔵品等）を適切に管理しているか。</p> <p>施設設備の維持管理について、火災等災害対策、防犯対策、避難対策に対処した整備及び定期的な点検訓練がなされているか。コンピュータシステムのセキュリティ対策は適切か。</p> <p>施設設備の維持管理において、省エネ・省資源対策、その他地球環境保全の配慮がなされているか。</p> |

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

| 2009年度に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 進捗評価 | | | | |
|--|---|------|------|------|------|------|
| | | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
| 1. 法人全体として強固な財政基盤を確保するため、以下の目標を設定する。 ①帰属収支差額比率：10.5% ②純人件費比率：52.3%（過去5年間平均） ③総人件費比率：56.4%（過去5年間平均） ④教育研究経費比率：33%程度を維持 ⑤寄付金比率：3.0%（2007年度全国平均）を目指す | →①帰属収支差額比率、②純人件費比率、③総人件費比率、④教育研究経費比率、⑤寄付金比率 | C | C | | | |
| 2. 事業評価結果に基づく予算事前折衝を導入する。（削除） | →事業評価結果に基づく予算事前折衝の導入 | D | D | | | |
| 3.2. 法人としての新基本構想のビジョン実現および資金の有効活用の視点から内部監査を実施し、業務および会計処理の改善を行う。 | →内部監査の結果、指摘・提言に対する改善状況 | A | A | | | |

☆

| 2010年度以降に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 進捗評価 | | | | |
|-------------------|-----------|------|------|------|------|------|
| | | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
| なし | →なし | | | | | |
| なし | →なし | | | | | |

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

| | |
|----------|---|
| 小項目8.0.1 | <p>8.0.1 財務運営が適切に行われていること</p> <p>(説明)</p> <p>本学では、法人内の学校ごとのセグメント計算書を毎年の予算・決算時に作成し、収支状況を適宜把握するよう努めている。各部門の収支については、独立採算制を採っているわけではないので、支出超過部門についても、原則的にはオール関西学院で支えあう体制となっている。しかし、昨今では保証人をはじめとする学院関係者への説明責任を果たす上で、法人として、学校ごとの収支改善に向けた方策を考えるとともに、当該部門に対しても収支改善に向けた取り組みをおこなうよう勧告している。</p> <p>1. 予算編成はスケジュールに沿って実施している。現行の予算制度は、各部にあらかじめ予算ガイド額を提示することにより、予算編成時に事業のスクラップ&ビルドを促す制度となっている。そして、執行にあたっての指針として、予算通知時に「予算の適正な執行にあたっての注意」を示し、執行ルールの明確化・適正化を図っている。</p> <p>2. 決算時には各部に成果報告書の提出を義務付けているが、法人として予算執行内容を分析・検証し、次年度の予算に反映する仕組みが欠如しているため、その部分を補完するための新たな仕組みづくりとともに、それらをもとにした予算事前折衝制度の導入が必要と考えている。</p> <p>3. 当該期間の内部監査については、6つの部局を対象とした部局ごとの業務・会計監査、9つの事業計画を対象とした事業評価の検証および補助金・受託研究費事業の監査を実施した。特に統括部局については、新基本構想のビジョン実現の視点で監査を実施した。監査の結果、指摘・提言事項については、理事長から被監査部局に対して検討を要請し回答を求めた。2009年度下半期および2010年度上半期監査の指摘・提言事項については回答があり、予算執行状況、新中期計画の進捗管理、自己点検・評価結果の活用、各種プログラムの提供、共通業務の集約、外部資金の獲得、資産管理等について改善回答があった。この中には、すぐに改善できない事項も若干あるが、多くは改善済または改善中である。</p> <p>4. 本学では1969年以降、毎年、予算及び決算について財務情報の公開を行っている。ホームページ上で公開もいち早く実施している。特に、決算結果については、事業報告書の中で「事業の概要および財務の概要」として前年度比較を交えて詳細な説明を加えるとともに、資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表といった財務諸表や経年比較データも記載し、学校会計に詳しくない一般の方々にも理解しやすい構成を心がけている。</p> |
| 小項目8.0.2 | <p>8.0.2 財務体質が健全であること</p> <p>(説明)</p> <p>本学では、幼稚園から大学・大学院、さらには専門職大学院までの学校を擁し、学校法人全体としての資金管理を法人の財務部でおこない、各学校は収入にもとづく独立採算制ではなく、毎年、決定された予算により運営する方式を取っている。</p> <p>1. 「新基本構想」実現のため、2009年度～2013年度の5年間にわたる施策が「新中期計画」として策定され、順次、実行に移されている。新中期計画等の施設設備投資額を10～12億円規模と想定し、2018年度までの財政見通しを立案している。</p> <p>2. 消費収支計算書関係比率および貸借対照表関係比率をもとに現状把握に努め、比率の適正化に向け、全学的な課題について財務改革・業務改革本部で検討を行なうとともに、各部に協力を働きかけている。</p> <p>財務・業務改革本部では強固な財務基盤の確立のため、実現可能性のある健全な財務評価指標（目標値）を、次のとおり再設定した。</p> <p>① 帰属収支差額比率：8%以上（合併受け入れ除く）</p> <p>② 純人件費比率：54.7%以下 ※消費収支計算における帰属収入に占める人件費の割合</p> <p>③ 総人件費比率：59.0%以下 ※消費収支計算における帰属収入に占める人件費および業務委託費の割合</p> <p>④ 教育研究経費比率：33.0%程度(減価償却費を含む)を維持</p> <p>⑤ 寄付金比率：3.0%（2007年度全国平均）を目指す</p> <p>この設定値に対し、2010年度の結果としては、次のとおりである（合併受け入れ除く）。</p> <p>① 帰属収支差額比率：11.5%</p> <p>② 純人件費比率：53.3%</p> <p>③ 総人件費比率：59.3%</p> <p>④ 教育研究経費比率：31.3%</p> <p>⑤ 寄付金比率：2.3%</p> <p>帰属収支差額比率が目標値をクリアし、教育研究経費比率が目標を下回った原因としては、建設等の施設・設備費から営繕費（経費）への振替額が工事遅延等の影響を請け、例年に比べ大幅に減少したことや、リース会計の影響により、予算では経費で見ていたものが最終的には設備費での処理することになった、等々の理由による。</p> <p>また、純人件費比率は目標値を下回っていますが、中長期計画におけるシミュレーションでは、新中期計画の進行に伴って人件費の増加が予定されており、今後、比率の悪化が予想される。</p> |
| 小項目8.0.3 | <p>8.0.3 短期大学に必要な施設設備が整備され、その管理が適切に行われていること</p> <p>必要設備については学部との共用もあり充実されている。また、管理方法については、担当部署と連携し備品登録、棚卸し等規定に定められた管理を行っている。</p> |
| その他 | |

《評価指標データ》



◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(1)】効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

| | |
|-----------|---|
| 小項目8.0.1 | 各部局に共通する予算執行の改善点については、予算連絡会で注意を喚起し、また、常務理事からの「予算の適正な執行にあたっての注意(お願い)」の文言追加や補足説明が行われたことにより、予算執行ルールがより明確化され、遵守されてきている。実地監査に当たっては、被監査部局の課題・問題点について話し合うことにより、当該部局の自主的な改善努力にもつながっている。 |
| ★小項目8.0.2 | |
| 小項目8.0.3 | 空調機器の入替、改修を計画的に行い、重油ボイラーでの暖房運転量を減少させ、省エネ、環境保全への配慮をしている。 |
| その他 | |

【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

| | |
|-----------|---|
| 小項目8.0.1 | 三様監査の連携・協力について、監事会議での懇談や日常的にも情報交換等をより密にし、効果的な監査を実施する。 |
| 小項目8.0.2 | |
| ★小項目8.0.3 | 空調機器の未改修箇所の入替要望を提出。学内全体の空調の温度管理や使用電力量の管理を行い、更なる環境配慮を行う。 |
| その他 | |

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(2)】改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

| | |
|-----------|---|
| 小項目8.0.1 | 各部に義務付けている決算成果報告や内部監査室の実施している事業評価調書、さらには自己点検・評価結果を活用し、次年度の予算編成に活かすことができるシステム作りのためにも、法人内でその必要性の理解を進めることが急務である。 |
| 小項目8.0.2 | |
| ★小項目8.0.3 | 予算決定後に備品・消耗品購入依頼が教員から出てきたりして、予算外申請又は、他部署へ購入依頼をしたりしないといけない事がおきている。工事が伴う場合は、工事時期の問題もあり、年度内で施工出来なかったりする場合も有るので申請時期を守ってほしい。 |
| その他 | |

【次年度に向けた方策(2)】改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

| | |
|-----------|---|
| 小項目8.0.1 | 法人内で事前折衝精度の必要性について理解が進んでおらず、その必要性について機会あるごとに説明し、理解を得る以外方策が見当たらない。 |
| 小項目8.0.2 | |
| ★小項目8.0.3 | 年間の授業計画を作成してもらい、その中で必要な備品・消耗品の購入希望を予算申請時期にあわせて提出してもらい予算の確保を行う。 |
| その他 | |

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

| | |
|----------------|--|
| ★その他 (自由記述) | |
|----------------|--|

Ⅲ. 学内第三者評価

＜評価専門委員会の評価＞

【学外委員】

○Ⅱ. 自己点検・評価（2010. 5. 1～2011. 4. 30の進捗状況報告）の「2. 事業評価結果に基づく予算事前折衝を導入する。」の進捗評価が2009年も2010年もDであるのは、対策を立てて改善をする必要がありますね。

【学内委員】

○財務運営は学校法人関西学院として行っており適切です。また、記述も適切です。
 ○財務体質の健全性については、学校法人関西学院として資金管理を行っているので問題はないでしょう。しかしながら、聖和短期大学単独の健全性を財務部だけでなく聖和短期大学の構成員全員が常に意識認識することが重要でしょう。
 ○財務体質が健全であるかどうかは単年度だけでは判断できませんので、中長期的な計画に従って注意していくことが必要でしょう。
 ○小項目8.0.3の現状説明において、「担当部署」とありますがどこでしょうか。学外者にもわかるよう記述してください。
 ○避難訓練は定期的実施されていますか。

【事務的指摘】

○小項目8.0.3において「必要設備については学部との共用もあり充実されている。」は「「・・・充実している。」でしょう。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

○大学の自己点検評価に合わせるため、「目標」及び「指標」を次のとおり修正する。
 目標「2. 事業評価結果に基づく予算事前折衝を導入する。」については、強固な財政基盤確保のための指標のひとつであるため、目標からは除外し、その指標であった「事業評価結果に基づく予算事前折衝の導入」は目標1の二つ目の指標とする。
 それに伴い、目標「3. 新基本構想のビジョン実現および資金の有効活用の視点から内部監査を実施し、業務および会計処理の改善を行う。」の項番は、「2」に繰り上げる。

★○目標1の指標のひとつである「事業評価結果に基づく予算事前折衝の導入」の進捗状況が「D」評価となっているのは、次の理由によります。

- ①現在、内部監査室は室長1名の体制で監査業務を実施しています。事業評価制度を予算制度とリンクさせていくには、毎年、すべての計算単位の事業に対し、評価調書を提出していただき、その検証を行なう必要がありますが、現行の人員体制ではすぐには実現不可能な状況です。
- ②試行的に主要な事業に限定して実施するとした場合でも、予算責任者と理事者側の代表者（常務理事、財務担当常任理事、他）との間で、予算の有効な活用に向けた事前折衝を行うことについて、法人内でなかなか理解が得られていない状況です。

進捗状況報告シート

(2011年度・聖和短期大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

| | |
|------|---|
| 対象部局 | 聖和短期大学 |
| 大項目 | 9 改革・改善 |
| 中項目 | |
| 小項目 | 9.0.1 自己点検・評価活動の実施体制が確立していること |
| 要素 | 自己点検・評価のための規程及び組織を整備し、定期的に自己点検・評価を行っているか。 定期的に自己点検・評価報告書が公表されているか。 |
| 小項目 | 9.0.2 改革・改善のためのシステム構築への努力がみられること |
| 要素 | 自己点検・評価活動には出来るだけ多くの教職員が関与するよう配慮されているか。 自己点検・評価の成果を出来るだけ活用するよう配慮しているか。 |
| 小項目 | 9.0.3 相互評価（独自に行う外部評価を含む。以下、評価の観点も同じ）への取組みに努力していること |
| 要素 | 前の第三者評価から今回までの間に相互評価を実施したか。 相互評価のための規程及び組織を整備し、定期的に相互評価を行っているか。 相互評価の成果を出来るだけ活用するよう配慮しているか。 |

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

| 2009年度に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 進捗評価 | | | | |
|--------------------------------------|--|------|------|------|------|------|
| | | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
| 1. 毎年の自己点検・評価の実施 | →目標、指標の設定。毎年の自己点検・評価報告書の作成。2013年度の認証評価報告書作成。 | C | B | / | / | / |
| 2. 専門領域を同じくする松山東雲短期大学との相互評価の継続と結果の活用 | →定期的な検討会の実施状況。検討の進捗状況。報告書作成。 | C | B | / | / | / |
| | | ★ | | | | |
| 2010年度以降に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
| なし | →なし | / | / | / | / | / |
| なし | →なし | / | / | / | / | / |

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

| | |
|----------|--|
| 小項目9.0.1 | 9.0.1 自己点検・評価活動の実施体制が確立していること 関西学院の自己点検・評価制度（「新たな自己点検・評価」）の下、短期大学自己評価委員会を中心に、毎年、自己点検・評価を実施している。今年度は、「2010年度聖和短期大学自己点検・評価実施要領」にそって、昨年度設定した15項目の目標について1年間の進捗状況報告シートを作成し、学内第三者評価を受けた。評価結果についてはホームページで公表している。 |
| 小項目9.0.2 | 9.0.2 改革・改善のためのシステム構築への努力がみられること 短期大学自己評価委員会が中心となって、自己点検・評価進捗状況報告シート（案）を作成し、内容について逐次、教授会で検討している。 |
| 小項目9.0.3 | 9.0.3 相互評価（独自に行う外部評価を含む。以下、評価の観点も同じ）への取組みに努力していること 松山東雲短期大学との大学間相互評価を2008年、2009年と実施し、「松山東雲短期大学聖和短期大学相互評価結果報告書」を作成した。今回は短期大学基準協会の評価項目と評価基準に則って、領域Ⅰ建学の精神、教育理念、教育目的・教育目標、領域Ⅱ教育の内容、Ⅲ教育の実施体制について相互評価した。今後も継続して実施する予定である。 |
| その他 | |

《評価指標データ》

| | |
|---|--|
| ★ | |
| ★ | |
| ★ | |

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(1)】効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

| | |
|-----------|--|
| 小項目9.0.1 | 自己点検・評価が毎年行われるようになったことにより、短期大学の運営すべてにおいて自覚的に取り組む姿勢ができつつある。 |
| 小項目9.0.2 | |
| ★小項目9.0.3 | 専門領域を同じくする他校を評価することをおして、本学の教育内容、方法等を見直す良い機会となっている。 |
| その他 | |

【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

| | |
|-----------|-------------------------------------|
| 小項目9.0.1 | 毎年の自己点検評価を継続する。 |
| 小項目9.0.2 | |
| ★小項目9.0.3 | 今後の相互評価の継続についての手続き、相互評価の内容等についての検討。 |
| その他 | |

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(2)】改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

| | |
|-----------|--|
| 小項目9.0.1 | 短期大学基準協会の評価基準改定に伴い、新しい評価基準についての再検討が必要。 |
| ★小項目9.0.2 | 全教職員で自己点検・評価に取り組むべきであるが、時間の調整・確保が難しく、現在は各教員から提出された校務分掌に関する報告書等を参考に、主に短期大学自己評価委員会のメンバーが中心となって報告シートを作成している現状である。 |
| 小項目9.0.3 | |
| その他 | |

【次年度に向けた方策(2)】改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

| | |
|-----------|--|
| 小項目9.0.1 | 短期大学基準協会の評価基準改定に伴い、新しい評価基準についての再検討が必要。 |
| ★小項目9.0.2 | より多くの教職員が自己点検・評価に関与し、その成果を活用できるシステムを早急に構築する。 |
| 小項目9.0.3 | |
| その他 | |

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

| | |
|----------------|--|
| ★その他 (自由記述) | |
|----------------|--|

Ⅲ. 学内第三者評価

＜評価専門委員会の評価＞

【学外委員】

○学校名ですが、Ⅰ.「9.0.1, 9.1.2等」では、「自己点検」となっていますが、Ⅱ.9.0.1では「短期大学自己評価委員会」、「2010年度聖和短期大学自己点検・評価実施要領」と、学校名の使用状況が種々です。原文がありまとめることが難しいと思われませんが、正式名称、略式名称などを決め統一基準で使用することが望まれます。

【学内委員】

○自己点検・評価が進められていることは評価できます。
 ○短期大学において第三者評価を組み込んだ自己点検・評価を実施しているところは多くないと思います。大学においても先駆的な制度ですから、負担にはなるでしょうが、この制度を利用され、より効率的で適切な自己点検・評価を実施されること、そして、そのことで改善・改革が進むことを期待します。
 ○データを用いた定量的な評価が出来るものはそのような評価を行うよう努力してください。また、そのための基礎的なデータ作成、公表は速やかに実施する必要があります。
 ○小項目9.0.1において、短期大学自己評価委員会規程について記述しておく方がいいでしょう。
 ○伸長させるための事項、改善方法の記述において「検討する」などでは曖昧です。より具体的なものが望まれます。検討するについても、どこで、どこまで検討するのかなどの記述が必要でしょう。

IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ 現状説明9.0.1を次の文章と差し替える「関西学院の自己点検・評価制度（「新たな自己点検・評価」）の下、聖和短期大学自己評価委員会規程を制定し、聖和短期大学自己評価委員会を中心に、毎年、自己点検・評価を実施している。今年度は、「2010年度聖和短期大学自己点検・評価実施要領」にそって、昨年度設定した15項目の目標について1年間の進捗状況報告シートを作成し、学内第三者評価を受けた。評価結果についてはホームページで公表している。」現状説明9.0.2を次の文章と差し替える「聖和短期大学自己評価委員会が中心となって、自己点検・評価進捗状況報告シート（案）を作成し、内容について逐次、教授会で検討している。」

進捗状況報告シート

(2011年度・聖和短期大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

| | |
|------|---|
| 対象部局 | 聖和短期大学 |
| 大項目 | 10 キリスト教主義教育 |
| 中項目 | |
| 小項目 | 10.0.1 キリスト教主義教育を行うための組織・体制は適切か。 |
| 要素 | |
| 小項目 | 10.0.2 キリスト教主義教育は、本学の使命・目的に照らして適切に行っているか。 |
| 要素 | (KG1)方針、実施内容 |

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

| 2009年度に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 進捗評価 | | | | |
|--|-------------------------------|------|------|------|------|------|
| | | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
| 1. オリエンテーション、授業、学校礼拝、諸行事等によるキリスト教主義教育の実践 | →オリエンテーション、授業、学校礼拝、諸行事等の実施状況。 | C | B | / | / | / |
| 2. 教職員に対する研修会の開催。学校礼拝、諸教行事などへの積極的な参加。 | →研修会の実施状況、学校礼拝、諸行事への参加状況。 | D | C | / | / | / |
| | | ★ | | | | |
| 2010年度以降に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
| なし | →なし | / | / | / | / | / |
| なし | →なし | / | / | / | / | / |

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

| | |
|-----------------|---|
| 小項目 10.0.1 | 10.0.1 キリスト教主義教育を行うための組織・体制は適切か。 学校礼拝は、授業のある日は原則として毎日行われている。特に木曜日は、50分間のロングチャペルを実施している。合併初年度は、本学と関西学院大学教育学部が別々に礼拝を行っていたが、今年度より曜日ごとに礼拝の担当するなど連携し、キャンパス全体としての礼拝運営が可能となり、短大、大学の学生が共に礼拝する場となっている。特に、月曜日の礼拝は、短大の各ゼミ・アドバイザークラスが担当している。キリスト教教育・保育研究センターは、短大だけでなく、教育学部、神学部、聖和幼稚園からも研究員を委嘱し、キリスト教教育・キリスト教保育に関する研究会を実施している。今年度は、公開講座の開催や研究センター所蔵の資料を用いて特別展示「『聖和の資料から見る日曜学校』展」も行った。 |
| ★ 小項目 10.0.2 | 10.0.2 キリスト教主義教育は、本学の使命・目的に照らして適切に行っているか。 教育目標である『キリスト教精神に基づく豊かな人間性、専門性、実践力を兼ね備えた保育者の育成』に基づき、キリスト教関係科目を必修科目として各学年に開講する教育課程を編成している。毎日行われる学校礼拝、クリスマス等キリスト教関係行事への参加が奨励され、またキリスト教保育を展開している聖和幼稚園での実習や行事等への参加をとおして、さらにキリスト教への理解が深められている。 |
| その他 | |

《評価指標データ》

| | |
|---|--|
| ★ | |
| ★ | |
| ★ | |

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(1)】効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

| | | |
|---|---------------|---|
| ★ | 小項目 10.0.1 | 1年次の学校礼拝、キリスト教関係行事等への参加については、宗教主事、キリスト教関係科目担当者、アドバイザー等が連携し、礼拝出席を奨励する体制をとっている。月曜日の礼拝は、短大の各ゼミ・アドバイザークラスが担当している。 |
| | 小項目 10.0.2 | 宗教主事、キリスト教関係科目担当者、アドバイザー等の連携により、特に1年次の学校礼拝、キリスト教関係行事への出席が安定している。 |
| | その他 | |

【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

| | | |
|---|---------------|----------------------|
| ★ | 小項目 10.0.1 | 2年次アドバイザーとの連携体制を整える。 |
| | 小項目 10.0.2 | |
| | その他 | |

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(2)】改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

| | | |
|---|---------------|--|
| ★ | 小項目 10.0.1 | |
| | 小項目 10.0.2 | すべての学生が卒業までに一度は必ずキリスト教主義の幼稚園や保育所で実習を行い、キリスト教保育を経験できるようにこれまで配慮してきたが年々困難になりつつある。 |
| | その他 | |

【次年度に向けた方策(2)】改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

| | | |
|---|---------------|---|
| ★ | 小項目 10.0.1 | |
| | 小項目 10.0.2 | 実習園として聖和幼稚園以外のキリスト教主義幼稚園・保育所を開拓し、連携を進める。また、本学の教育目標等を実習先に丁寧に説明する機会をもつ。 |
| | その他 | |

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

| | | |
|---|---------------|--|
| ★ | その他 (自由記述) | |
|---|---------------|--|

Ⅲ. 学内第三者評価

＜評価専門委員会の評価＞

【学外委員】

○キリスト教主義教育について、可能ならば実態調査やアンケート等によりその効果を具体的に示すことがなされたいと思います。この項目についても、次年度に向けた方策(小項目10.0.2)が前年度と同一の記述ということは気になることです。

○Ⅱ.10.0.2「キリスト教主義幼稚園保育所での実習は困難になりつつある。」ということは残念ですね。新規実習園を開拓し、学生達にミッションステートメントを体験的に理解してもらおうことが望まれます。

【学内委員】

○キリスト教主義教育につき努力されていることが伺えます。

○昨年度、伸長させるための方策に掲げられた「月曜定例礼拝をゼミ・アドバイザークラス単位で担当する」、改善方策に掲げられた「キャンパス全体礼拝」は、実現されました。着実に改善が進んでいます。

○2年連続で課題、方策にあがっているものは早期の実現が困難なのですが、継続的な努力をされ、改善されることを期待します。

○小項目10.0.2の現状説明において、キリスト教主義教育の方針について明示してください。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

| | |
|---|----|
| ★ | なし |
|---|----|

進捗状況報告シート

(2011年度・聖和短期大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

| | |
|------|---|
| 対象部局 | 聖和短期大学 |
| 大項目 | 11 人権教育・人権問題 |
| 中項目 | |
| 小項目 | 11.0.1 人権教育は、本学の使命・目的に照らして適切に行っているか。 |
| 要素 | (KG1)方針、実施内容 (KG2)人権意識の涵養とその現状 |
| 小項目 | 11.0.2 人権問題への対応を適切に行っているか。 |
| 要素 | (KG1)ハラスメント防止のための措置の適切性 (KG2)セクシャル・ハラスメント防止への対応 (KG3)アカデミック・ハラスメント防止への対応 (KG4)その他ハラスメント防止への対応 (KG5)人権侵害の防止とその対応 |

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

| 2009年度に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 進捗評価 | | | | |
|--------------------------------|-----------------------------------|------|------|------|------|------|
| | | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
| 1. 人権に関するオリエンテーションおよびパンフレットの充実 | →オリエンテーションの実施状況およびパンフレットの検討の進捗状況。 | C | B | | | |
| 2. 保育者としての人権意識を涵養するための教育の検討 | →人権関連科目の履修状況、授業内容の検討状況。 | C | C | | | |
| 3. ハラスメントに関する相談ルートの整備および周知徹底。 | →ハラスメントに関する相談ルートの整備状況および学生への周知。 | C | B | | | |
| 4. 教職員の人権関連研修会への積極的参加 | →研修会への参加状況 | C | C | | | |

☆

| 2010年度以降に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
|-------------------|-----------|------|------|------|------|------|
| なし | →なし | | | | | |
| なし | →なし | | | | | |

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

| | |
|-----------------|---|
| 小項目 11.0.1 | 11.0.1 人権教育は、本学の使命・目的に照らして適切に行っているか。 入学時に配布する「要覧」に人権に関する内容を記載し、新入生オリエンテーション、アドバイザーアワー（学生生活全般について相談・助言し、学生相互の話し合いや様々な形での交わりの時）や授業をとおして人権教育を実施している。特に保育者養成に関する科目には人権に係る内容を含んだものが多く、各教科内容をとおして具体的に教授している。 |
| ★ 小項目 11.0.2 | 11.0.2 人権問題への対応を適切に行っているか。 ハラスメントに関する相談ルートを作成し、2名の人権相談担当者が対応している。学生に対しては、「要覧」にキャンパス・ハラスメントの防止と被害を受けた場合の相談ルート等を記載し、新入生オリエンテーションにおいて説明を行っている。相談ルートについては常時掲示もしている。また教員に対しては、教授会で説明し、周知を図っている。 |
| その他 | |

《評価指標データ》

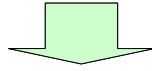
| | |
|---|--|
| ★ | |
| ★ | |
| ★ | |

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

| | |
|-----------------|---|
| 小項目 11.0.1 | 特に保育者養成に関する科目には人権に関わる内容を含んだものが多く、各教科内容を通して具体的に教授している。 |
| ★ 小項目 11.0.2 | |
| その他 | |

【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策



注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

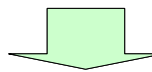
| | |
|-----------------|---|
| 小項目 11.0.1 | 特に保育者としての人権意識を涵養するために、職業倫理などについても授業に含め充実する。 |
| ★ 小項目 11.0.2 | |
| その他 | |

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

| | |
|-----------------|---|
| 小項目 11.0.1 | 人権に関するオリエンテーションやパンフレットの内容について、再検討する必要がある。 |
| ★ 小項目 11.0.2 | 人権に関する研修会への教職員の参加が少ない。 |
| 小項目 11.0.3 | |
| その他 | |

《次年度に向けた方策(2)》改善方策



注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

| | |
|-----------------|----------------------------------|
| 小項目 11.0.1 | オリエンテーションの内容の検討及び新パンフレットの作成。 |
| ★ 小項目 11.0.2 | 教職員の人権意識の向上を図るために、研修会等への参加を促進する。 |
| その他 | |

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

| | |
|-----------------|--|
| ★ その他 (自由記述) | |
|-----------------|--|

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

○評価項目進捗評価で、Cのままで進捗がない項目が2項目あるのは改善してください。
○改善すべき事項、《次年度に向けた方策(2)》改善方策11.0.2で「教職員の人権意識の向上を図るために研修会参加の促進をする」という改善方策ですが「受け身だけではなく、部門毎に企画をもするように」主体的に関われるシステムも必要ですね。

【学内委員】

○本項目は聖和短期大学独自の項目です。その取り組みについて期待します。
○次年度に向けた方策の中に抽象的なものがあります。具体的に記述することが期待されます。
○小項目11.0.1の現状説明において、人権教育の方針について記述を求めます。
○効果が上がっている事項の小項目11.0.1に「徐々に浸透している」との記述がありますが、何をもってそう言えるのでしょうか。それを検証する方法をお考えください。
○伸長させるための事項、改善方法の記述において「再検討する」「促進する」などでは曖昧です。より具体的なものが望まれます。検討するについても、どこで、どこまで検討するのかなどの記述が必要でしょう。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

| | |
|------|--|
| ★ なし | |
|------|--|

進捗状況報告シート

(2011年度・聖和短期大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

| | |
|------|---|
| 対象部局 | 聖和短期大学 |
| 大項目 | 12 ボランティア活動・教育 |
| 中項目 | |
| 小項目 | 12.0.1 ボランティア活動・教育は、本学の使命・目的に照らして適切に行っているか。 |
| 要素 | (KG1)方針、実施内容 |
| | (KG2)ボランティア活動実践への対応 |
| | (KG3)ボランティア活動に関する課題の把握 |
| | (KG4)ボランティア教育の現状 |

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

| 2009年度に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 進捗評価 | | | | |
|-------------------------------|-----------------------------|------|------|------|------|------|
| | | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
| 1. ボランティア活動の意義についてのしおりの作成と活用 | →しおりの内容の検討と作成。配付。 | D | C | / | / | / |
| 2. ボランティア活動実施のための情報提供、支援体制の整備 | →学生のボランティア活動への参加状況、情報提供の件数。 | D | C | / | / | / |
| | | ☆ | | | | |
| 2010年度以降に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
| なし | →なし | / | / | / | / | / |
| なし | →なし | / | / | / | / | / |

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

| | | |
|---|---------------|---|
| ☆ | 小項目 12.0.1 | 12.0.1 ボランティア活動・教育は、本学の使命・目的に照らして適切に行っているか。 入学式、卒業式、オリエンテーション、学校礼拝等において、関西学院のミッションステートメント、建学の精神、教育理念等をおしてキリスト教の奉仕の精神について伝えており、学生たちは、忙しい授業スケジュールの合間をぬって、教員の呼びかけによるボランティア活動（神戸市民福祉振興協会主催の障害児ファミリーデイキャンプや全国心臓病の子どもを守る会兵庫県支部主催のサマーキャンプ、関西学院聖和幼稚園での病弱児保育等）に多くが参加している。また、実習施設や地域の幼稚園、保育所の預かり保育や行事等のボランティア活動も積極的に行っている。短期大学としては、ボランティア募集の案内は随時掲示しているが、方針の明示や支援体制づくりがまだできていない。 |
| | その他 | |

《評価指標データ》

| | |
|---|--|
| ☆ | |
| ☆ | |
| ☆ | |

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(1)】効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

| | | |
|---|---------------|--|
| ★ | 小項目 12.0.1 | ボランティアの募集の案内を掲示することにより、「神戸市民福祉振興教会主催の障害児ファミリーデイキャンプ」「日本医療保育学会のボランティア」「全国心臓病の子どもを守る会兵庫県支部主催のサマーキャンプ」「関西学院聖和幼稚園での病弱児保育」など、多くの学生が自主的にボランティア活動に参加している。 |
| | その他 | |

【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

| | | |
|---|---------------|------------------------------|
| ★ | 小項目 12.0.1 | ボランティア活動の意義についてのしおりの内容を検討する。 |
| | その他 | |

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(2)】改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

| | | |
|---|---------------|----------------------------|
| ★ | 小項目 12.0.1 | ボランティア活動実施のための支援体制が整っていない。 |
| | その他 | |

【次年度に向けた方策(2)】改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

| | | |
|---|---------------|----------------------------|
| ★ | 小項目 12.0.1 | ボランティア活動の方針を明示し、支援体制を整備する。 |
| | その他 | |

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

| | | |
|---|---------------|--|
| ★ | その他 (自由記述) | |
|---|---------------|--|

Ⅲ. 学内第三者評価

＜評価専門委員会の評価＞

【学外委員】

○多くの学生がボランティア活動に教員の呼びかけによるのみならず、自主的にも参加していることは評価できます。それだけに短期大学としての「支援体制づくりがまだできていない」という現状は早く改善されることが望まれます。

○《次年度に向けた方策(2)》改善方策、12.0.1「ボランティア活動の方針を明示し、支援体制を整備する。」とあるように、一層の支援体制の整備を期待します。

【学内委員】

○学生のボランティア活動が盛んに行われているようです。

○本項目は聖和短期大学独自の項目です。その取り組みについて期待します。

○適切に評価されていますが、改善方策が昨年度と同じ内容であり抽象的です。人的資源の問題など障害はあるとは思いますが、関西学院大学や、西宮市内の大学の連携組織などを利用することで改善を進めることが期待されます。

○ボランティア活動の実態を把握することは困難ですが、できるだけ把握されることを期待します。参加回数などの説明を期待します。

○伸長させるための事項、改善方法の記述において「検討する」「体制をつくる」などでは曖昧です。より具体的なものが望まれます。検討するについても、どこで、どこまで検討するのかなどの記述が必要でしょう。

○しおりの内容検討、支援体制の整備など2年続けて方策にあげられています。なかなかすぐには改善できないことかと思いますが、継続的な検討に期待するとともに、検討経過について現状説明があればなお分かりやすい報告書になると思います。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

| | |
|---|----|
| ★ | なし |
|---|----|

進捗状況報告シート

(2011年度・聖和短期大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

| | |
|------|--|
| 対象部局 | 聖和短期大学 |
| 大項目 | 13 国際交流 |
| 中項目 | |
| 小項目 | 13.0.1 国際交流（国内外における教育研究交流）についての方針を明示しているか。 |
| 要素 | (KG1) 国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針の適切性 |
| 小項目 | 13.0.2 国際交流（国内外における教育研究交流）を適切に行っているか。 |
| 要素 | (KG1) 国際レベルでの教育研究交流を緊密化させるための措置の適切性 |
| 小項目 | 13.0.3 国際教育・協力を適切に行っているか。 |
| 要素 | (KG1) 国際理解のための教育 (KG2) 国際協力の実践 |

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

| 2009年度に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 進捗評価 | | | | |
|---|----------------------------------|------|------|------|------|------|
| | | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
| 1. 短期大学における国際理解のための教育および国際交流に関する基本方針の明確化 | →国際理解のための教育および国際交流に関する基本方針の策定 | D | D | / | / | / |
| 2. グローバル化した阪神間の地域特性に合わせた国際感覚やコミュニケーション能力をもった保育者を育てるための教育の推進 | →国際理解に関連する授業、学校礼拝、その他のプログラムの実施状況 | D | D | / | / | / |
| | | ☆ | | | | |
| 2010年度以降に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
| なし | →なし | / | / | / | / | / |
| なし | →なし | / | / | / | / | / |

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

| | |
|-----------------|---|
| 小項目 13.0.1 | 13.0.1 国際交流（国内外における教育研究交流）についての方針を明示しているか。 (方針明示の有無) いすれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ ○ 明示している ● 明示していない |
| | (方針) 国際交流についての方針は明示できていない。 |
| 小項目 13.0.2 | 13.0.2 国際交流（国内外における教育研究交流）を適切に行っているか。 2年間という短い学修期間とカリキュラム上の時間的制約のなかで、本学学生が内容的にも日程的にも参加できる国際交流プログラムを検討しているが、学外団体主催のものを紹介するにとどまっている。 |
| ☆ 小項目 13.0.3 | 13.0.3 国際教育・協力を適切に行っているか。 国際理解のための授業科目は残念ながら設置できていないが、「子どもと人権」「キリスト教保育Ⅰ」等の授業の中で、また学校礼拝にPHD協会のネパール人研修生や海外ボランティア経験のある卒業生等を招き、話をしてもらおう等、学生の国際理解を高める場を積極的に設けている。 |
| その他 | |

《評価指標データ》

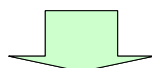
| | |
|---|--|
| ☆ | |
| ☆ | |
| ☆ | |

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(1)】効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

| | |
|---------------|--|
| 小項目 13.0.1 | |
| 小項目 13.0.2 | |
| 小項目 13.0.3 | |
| その他 | |

【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策



注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

| | |
|---------------|--|
| 小項目 13.0.1 | |
| 小項目 13.0.2 | |
| 小項目 13.0.3 | |
| その他 | |

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(2)】改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

| | |
|---------------|---|
| 小項目 13.0.1 | 国際交流の方針が明示されていない。 |
| 小項目 13.0.2 | 海外でのボランティア活動や研修ツアーに高い関心をもっている学生もおり、本学として安定して提供が可能な国際交流プログラムを検討することが課題である。 |
| 小項目 13.0.3 | |
| その他 | |

【次年度に向けた方策(2)】改善方策



注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

| | |
|---------------|-----------------------------------|
| 小項目 13.0.1 | 国際理解のための教育および国際交流に関する基本方針の策定。 |
| 小項目 13.0.2 | 関西学院大学国際教育・交流センター (CIEC) との連携を図る。 |
| 小項目 13.0.3 | |
| その他 | |

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

| | |
|-------------------------|--|
| 小項目 13.0.4 (自由記述) | |
|-------------------------|--|

Ⅲ. 学内第三者評価

＜評価専門委員会の評価＞

【学外委員】

○現在、社会全体の国際化は当たり前のこととなっていますが、その分国際理解教育の必要性がますます高まっています。その点、大学国際教育・交流センターとの連携が可能であるという状況は好都合だと思われまので、早期の改善が大いに期待される所です。

○Ⅱ. 自己点検・評価（2010. 5. 1～2011. 4. 30の進捗状況報告）で、「1. 短期大学における国際理解のための教育および国際交流に関する基本方針の明確化。2. グローバル化した阪神間の地域特性に合わせた国際感覚やコミュニケーション能力をもった保育者を育てるための教育の推進」の進捗評価がDで向上が見られないのは残念です。

○ミッションスクールで、他の養成校に比べると国際交流の機会が歴史的にも積み重ねられていると思われまので、積極的な改善を求めます。

○学生の中には在学中に海外へ行く人も多しと思われま、また、卒業生の中にも海外ボランティアとして、幼稚園や保育園での体験を持っている人もいるでしょう。そのような体験者に国際交流の必要性を話してもらおうという機会を作ることも一方法と思われま。

【学内委員】

○国際交流についての方針の作成、明示が期待されます。

○2年間の課程である短期大学において国際交流を図ることは容易ではないことが想像されます。また、教員の留学なども難しいでしょう。しかしながら、国際化は避けて通れないものから、聖和短期大学の国際交流方針を早期に立てられることを期待します。

○昨年度改善方策としてあげられていた「外国籍の人とのコミュニケーション能力を持った保育者を育てるための教育内容の検討」は、ネパール人研修生などを招いたことに繋がっているのだと思われま、改善方策として残し、引き続き検討することが必要ではないでしょうか。目標にも掲げられ、進捗評価も「D」です。

○改善方策が抽象的です。人的資源の問題など障害はあると思われま、具体化することが期待されます。

○小項目13. 0. 2の現状説明、教員の国際交流について説明をお願いします。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

なし

☆

進捗状況報告シート

(2011年度・聖和短期大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

| | |
|------|----------------------------|
| 対象部局 | 聖和短期大学 |
| 大項目 | 14 危機管理 |
| 中項目 | |
| 小項目 | 14.0.1 危機管理の体制を適切に整備しているか。 |
| 要素 | |

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

| 2009年度に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 進捗評価 | | | | |
|---|--------------------------------|------|------|------|------|------|
| | | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
| 1. 短期大学が管理すべき危機の整理、検討および危機管理の基本方針、体制の確立 | →危機管理基本方針の策定および実施マニュアルの作成の実施状況 | C | B | | | |
| 2. 全構成員の危機管理意識向上のための研修会および避難訓練等の開催 | →研修会および避難訓練等の実施状況 | D | D | | | |

☆

| 2010年度以降に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
|-------------------|-----------|------|------|------|------|------|
| なし | →なし | | | | | |
| なし | →なし | | | | | |

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

| | |
|---------------|---|
| 小項目 14.0.1 | 14.0.1 危機管理の体制を適切に整備しているか。 学内での急病や事故等に対しては「関西学院救急マニュアル(西宮聖和キャンパス版)」を作成し、短期大学事務室に設置している。また今年度より学生に配布する「要覧」に避難場所およびAED、非常通報装置等設置場所を記載し、学内での緊急時の避難等についてオリエンテーション等で説明している。特に外部者を対象とした行事(入学試験や夏の研修会等)前には、避難方法、避難経路、連絡体制についてその都度、確認している。 |
| その他 | |

《評価指標データ》

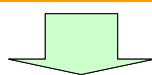
☆
☆
☆

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

| | |
|---------------|--|
| 小項目 14.0.1 | |
| その他 | |

【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策



注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

| | |
|---------------|--|
| 小項目 14.0.1 | |
| その他 | |

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

| 【点検・評価 (2)】改善すべき事項 | | 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。 |
|--------------------|---------------|---|
| ★ | 小項目 14.0.1 | 地震等災害時等の対応についての基本方針やマニュアルの策定ができていない。 |
| | その他 | |
| 《次年度に向けた方策(2)》改善方策 | | 注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。 |
| ★ | 小項目 14.0.1 | 早急に、基本方針とマニュアルを策定する。また全構成員の危機管理意識向上のための研修会および避難訓練の実施。 |
| | その他 | |

◎自由記述

| 【点検・評価】&【次年度に向けた方策】 | |
|---------------------|---------------|
| ★ | その他 (自由記述) |

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

○Ⅱ. 自己点検・評価 (2010. 5. 1～2011. 4. 30の進捗状況報告) 「2. 全構成員の危機管理意識向上のための研修会および避難訓練等の開催」の進捗評価がDなのは残念です。学生の安全のためにも、卒業して保育現場に就職し教諭や保育士になって子ども達の安全を守る保育者になる体験の第一歩でありますから改善を求めます。

○《次年度に向けた方策 (2)》改善方策14.0.1. 「早急に、基本方針とマニュアルを策定する。また全構成員の危機管理意識向上のための研修会および避難訓練の実施。」とありますが、1995年に大震災を経験した学校としては、マニュアル等が策定されていないことに不思議さを感じます。

【学内委員】

○地震などの災害時における対応について、基本方針を早期に作成することが期待されます。

○日常の事故や病人に対する体制は着実に整備されてきています。それが効果的に運用できるようにしておくことが求められます。

○地震や災害時の対応については、関西学院全体の課題として改善の方策を検討する必要があります。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

| | |
|---|----|
| ★ | なし |
|---|----|